MS・キャラクター・ヒスト　　ーズの完全記録

THE OFFIC　　ガンダム パーフェクト・ファイル

GUNDAM

2014/8/12

149

MECHANIC FILE

ゴトラタン／ヅダ／
『袖付き』のMS③／
F90Ⅱバリエーション／
早期警戒・空中指揮型ディン特殊電子戦仕様

PERSONAL PROFILE

カテジナ・ルース／
クロノクル・アシャー／
フェザール・イゼルカント／
ドレーネ・イゼルカント／
ヒクサー・フェルミ／ハヤナ

WORLD GUIDE

サンクキングダム崩壊／
AH作戦

U.C.TIMELINE

ラサ基地攻略戦

GLOSSARY

『機動戦士ガンダム00』用語集

今週のMS❶
ZMT-S33S GOTTRLATAN

カテジナ・ルース

AH作戦

DeAGOSTINI インターネットでパートワークをより楽しく deagostini.jp

THE OFFICIAL GUNDAM PERFECT FILE

CONTENTS

第149号　目次

MECHANIC FILE　メカニックファイル

ゴトラタン	V	FILE:01 / SHEET:34A	149-1
ヅダ	IGL	FILE:01 / SHEET:03B	149-5
『袖付き』のMS③	UC	FILE:01 / SHEET:17B	149-7
F90Ⅱバリエーション	AGS	FILE:01 / SHEET:87A	149-9
早期警戒・空中指揮型ディン特殊電子戦仕様	AGS	FILE:01 / SHEET:146A	149-11

PERSONAL PROFILE　パーソナルプロファイル

カテジナ・ルース	V	FILE:02 / SHEET:25B	149-13
クロノクル・アシャー	V	FILE:02 / SHEET:24C	149-15
フェザール・イゼルカント／ドレーネ・イゼルカント	AGE	FILE:02 / SHEET:29A	149-17
ヒクサー・フェルミ／ハヤナ	AGS	FILE:02 / SHEET:26A	149-19

WORLD GUIDE　ワールドガイド

サンクキングダム崩壊	W	FILE:03 / SHEET:07A	149-21
AH作戦	V	FILE:03 / SHEET:14A	149-23

U.C.TIMELINE　宇宙世紀年表

ラサ基地攻略戦	08	FILE:04 / SHEET:05	149-27

GLOSSARY　ガンダム用語辞典

『機動戦士ガンダム00』用語集	00	FILE:05 / SHEET:06	149-29
『機動戦士ガンダム00』用語集	00	FILE:05 / SHEET:07	149-31

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』

特製バインダー好評発売中

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』は、特製バインダーを使ってファイリングしていくユニークな雑誌です。この特製バインダーを、全国の書店で販売しております。2冊セットで本体価格562円(税抜き)。ぜひお買い求めください。

※このバインダーには、ディバイダー(仕切り用紙)はついていません。
創刊プレゼントのバインダーについているディバイダーをご利用ください。
※1冊のバインダーに、本誌約10冊分を綴じることができます。

[発行日] 2014年8月12日
[発　行] 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
〒104-6205　東京都中央区晴海1-8-12トリトンオフィスタワーZ
[発行人] 小河原和世
[編集人] クロス中山慶子
[チーフエディター] 安部 翠
[アートディレクター] 今福健司
[印　刷] 大日本印刷株式会社

©2014 K.K.DeAgostini Japan All rights reserved.
本誌の記事・写真・絵画等を無断で複写(コピー)、転載することを禁じます。

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』は、2004年に弊社が刊行した週刊『ガンダム・ファクトファイル』の一部を流用しておりますが、最新のシリーズ作品やガンダム関連情報、新規描きおろしイラストなどを多彩に盛り込み製作したビジュアルマガジンです。

[編集協力] MEGALOMANIA(富田英樹／渡邊洋三／高村泰稔／本田あきら／鈴木秀治／公森直樹／山田晨寛)
[執　筆] 坂口徳仁／杉山和繁／谷澤光一／石井 誠
[デザイン] ケークルーデザインワークス(萩口洋文／及川深紗子／松永亮太)
[表紙イラスト] 山根理宏
[監　修] 株式会社サンライズ

©創通・サンライズ
©創通・サンライズ・MBS

●お客様サポートセンター
(本誌関連の一般的なご質問を承ります)
TEL:0570-008-109(月～金 10:00～18:00 土日祝を除く)

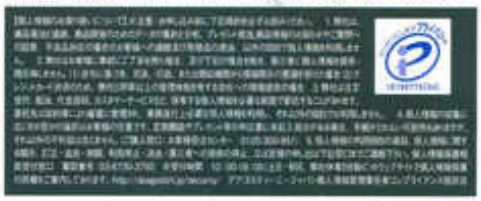
定期購読のご案内

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』は毎週火曜日発売のマガジンシリーズです(一部地域を除く)。シリーズは全180号を予定しています。シリーズ全号が確実にお手元に届くように、書店を通じての定期購読をお勧めいたします。最寄りの書店で、定期購読または予約購読をご用命ください。また、小社を通じての直接定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1. お客様受注センターに電話またはファクスで
TEL:0120-300-851(フリーダイヤル 9:00～21:00 年末年始を除く)
FAX:0120-834-353(フリーファックス 24時間受付)
2. インターネットで
http://deagostini.jp/gpf/(24時間受付)
※ケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
3. 定期購読申し込み用紙を郵送で
「定期購読のお知らせ」がお手元にない場合は受注センターまでご連絡ください。

バックナンバー／バインダー注文のご案内

本誌のバックナンバー／バインダーは最寄りの書店でご注文ください。なお、バックナンバーの在庫数には限りがございますので、その旨ご了承ください。直送(別途送料要、代引き)のご注文も承っております。上記お客様受注センターまでお問い合わせください。



本誌の最新情報をCheck!
PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
http://deagostini.jp/gpf/

このパーフェクト・ファイルで扱うガンダムシリーズ

本誌では、映像化された28作品のガンダム・シリーズを中心に取り扱います。OVAや映画など、異なる形態でリリースされた作品も各シリーズにまとめ、ひとつのシリーズとしてアイコン化しています。また、書籍やゲーム、プラモデルなど、映像化されなかった作品を「AGS」としてまとめて取り扱います。

■宇宙世紀を舞台にしたシリーズ
- FG 機動戦士ガンダム
- 08 機動戦士ガンダム 第08MS小隊
- IGL 機動戦士ガンダム MS IGLOO 1年戦争秘録、黙示録0079
- IGL2 機動戦士ガンダム MS IGLOO2 重力戦線
- GC GUNDAM CRISIS
- RIDE GUNDAM THE RIDE
- 80 機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争
- 83 機動戦士ガンダム0083 スターダストメモリー
- Z 機動戦士Zガンダム
- GD ガンダム新体験 −0087− GREEN DIVERS
- ZZ 機動戦士ガンダムZZ
- CCA 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア
- UC 機動戦士ガンダムUC
- F91 機動戦士ガンダムF91
- V 機動戦士Vガンダム

■宇宙世紀とは別の世界を舞台にしたシリーズ
- SG 機動武闘伝Gガンダム
- W 新機動戦記ガンダムW
- EW 新機動戦記ガンダムW Endless Waltz
- X 機動新世紀ガンダムX
- V Vガンダム
- SEED 機動戦士ガンダムSEED
- DES 機動戦士ガンダムSEED DESTINY
- SG 機動戦士ガンダムSEED C.E.73 STARGAZER
- 00 機動戦士ガンダム00
- AGE 機動戦士ガンダムAGE

■その他の作品
- AGS 非映像化作品 ※AGSは、ANOTHER GUNDAM STORYの略です。
- RG Ring of Gundam
- EVL GUNDAM EVOLVE

ZMT-S33S GOTTRLATAN
ZMT-S33S
GOTTRLATAN
ゴトラタン
Illustration by MASAHIRO YAMANE / Color by MICHIYO OHTANI (Wish) / Special Effect by AKIKO YAMAKAWA / Background by ATELIER MUSA

戦場を血に染めた深紅のモビルスーツ

ZMT-S33S

ゴトラタン
GOTTRLATAN

■ SPEC

全高	——（頭頂高 15.9m）
重量	11.1t（全備重量 24.9t）
ジェネレーター出力	6,170kW
スラスター推力	102,350kg
装甲材質	ハイチタン合金ネオセラミック複合材
武装	頭部ビーム・カッター／ビーム・トンファー×2／ビーム・シールド×2／ビーム・キャノン・ユニット（メガ・ビーム・キャノン、6連マイクロ・ミサイル・ポッド×2内蔵）／ビーム・ライフル／ビーム・サーベル×2
所属	ザンスカール帝国軍
搭乗者	カテジナ・ルース

■ COMPARISON CHART

■ COLOR

頭部
メインカメラには、他のザンスカール帝国軍製MSと同じくデュアル・センサーを採用している。だがアーモンド形ではなく、ほぼ球状な点が特徴。

肩部
肩部にはそれぞれ3基ずつスラスターを装備する。推力は一番大きい側部のスラスターが10,270kg、その前後のものは各々7,770kgとなっている。

背部
背部はビーム・キャノン・ユニットとの接続箇所であるため、バックパックは存在しない。その代わり、リアスカートに大型スラスターを1基備えている。

脚部
細い下脚部も含め、全体的に女性的なフォルムとなっている。下脚部の背面には各々3基ずつ（合計6基）スラスターを搭載しており、全推力の約4割を担っていた。

砲撃性能と汎用性を両立させたカテジナの乗機

ザンスカール帝国軍が開発した長距離射撃型試作MSがZMT-S33S ゴトラタンである。本機はZMT-S28S ゲンガオゾやZMT-S34S リグ・コンティオなど、個性的な試作機の開発で知られる帝国軍スーパーサイコ研究所製であり、これらの機体と同様、ザンスカール戦争の最終決戦に投入された。

ZMT-S33Sと似た運用コンセプトを持つ機体としては、超長距離射撃タイプのZMT-S29S ザンネックが存在する。だが、機体本体と長距離砲が直結していたZMT-S29Sとは大きく異なり、本機は単体としては汎用機である機体に、オプション化された長距離射撃ビーム兵器を装備する方式が採用された。これによりZMT-S33Sは長距離砲戦能力と高い白兵戦性能を両立させることに成功した。

ZMT-S33Sはザンスカール戦争末期、エンジェル・ハイロゥ攻防戦においてカテジナ・ルースがZM-S22S リグ・シャッコーに代わる自機として搭乗、運用した。戦場の狂気を己の中へ取り込んでしまった彼女が駆る本機は、リガ・ミリティアのシュラク隊をほぼすべて殲滅させるという鬼神の如き戦い振りを見せた。

関連ファイル

ZMT-S29 ザンネック	V-01-32
ZMT-S34S リグ・コンティオ	V-01-35
カテジナ・ルース	V-02-25
エンジェル・ハイロゥの決戦	V-03-09

FILE PREVIEW
V-02-25 カテジナ・ルース

ザンスカール帝国軍に加入した女性パイロット。かつてウッソ・エヴィンが憧れた存在だったが、戦いの中で敵対することとなった。

武　装　白兵戦を重視した格闘用兵装の充実

ZMT-S33Sは、単体で白兵戦での運用に長けた汎用MSとして開発・設計されており、ビーム・キャノン・ユニットを除く兵装は格闘戦を重視したものが装備されている。射撃用兵装はビーム・ライフルのみである一方、格闘戦用兵装はビーム・サーベル、ビーム・トンファー、ビーム・カッターと充実しており、MS単体時における高機動性との相乗効果もあり大きな戦果を挙げた。事実、本機はビーム・キャノン・ユニットを分離した状態で運用されることも多く、汎用MSとしての性能を重視したことは正解であったと言えるだろう。

リガ・ミリティアのMSと1対1で戦うことが求められたエンジェル・ハイロウ攻防戦では、機体単体で運用されることが多かった。

ZMT-S33S特有の接近格闘戦兵装であるビーム・トンファーは機動性に優れた本機との相性も良く、敵MSを一撃で仕留めるなど有効に活用された。

■ ビーム・カッター

頭部の角部分が前方へ可動し、そこからビーム放射束を発生させる。緊急時における隠し武器的な存在として内蔵されたと思われる。短射程のビーム・ライフル的な運用も可能。

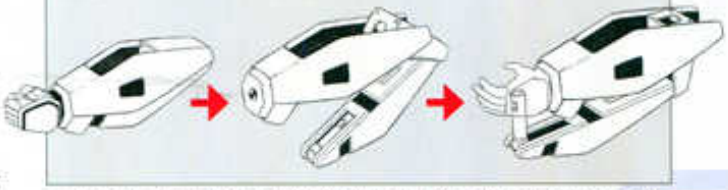
■ ビーム・ライフル

ZMT-S33S専用の短距離射程用ビーム・ライフル。大型の照準センサーを搭載しており、連射性にも優れる。円形のパーツは、MS本体とのジョイント部である。

■ ビーム・トンファー

トンファー状ではあるが打撃用兵器ではなく、幅広いビーム放射束で敵機を切断する。敵MSに接近して振り下ろし、一刀両断にする戦法を可能とした。

■ ビーム・トンファー発生シークエンス



ビーム・トンファーは未使用時には下腕部に内蔵されており、腕の一部として収納されている。肘の連結パーツによってトンファーが引き出され、出現したグリップをマニピュレーターが掴んで使用する。

特殊装備　戦艦並みの砲撃性能を獲得できる、オプションビーム兵装

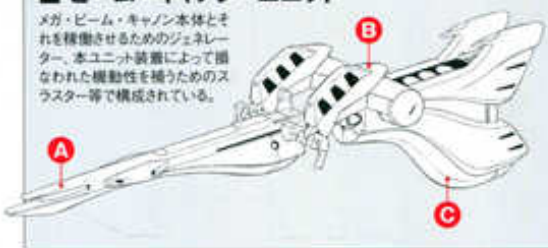
汎用兵器としての性質と、高度な砲撃性能は、本来相容れないものである。この問題を解決するため、帝国軍は「砲撃」の特性をMS本体から分離する案を採用した。それがZMT-S33Sのオプション特殊兵装であるビーム・キャノン・ユニットである。メガ・ビーム・キャノン自体を脱着可能なユニットとすることで、MS本来の汎用性の低下を防ごうと考えたのだ。高出力ジェネレーターの小型化といったU.C.150年代の技術によってこうした試みが実現可能となり、MSは新たな領域に踏み入れることができたのである。

長距離射撃用に開発されたメガ・ビーム・キャノンは、宇宙戦艦の主砲以上の出力を誇る。その威力は戦艦を一撃で破壊するほどのものであった。

メガ・ビーム・キャノンの発射には多少の時間を要したため、先行してミサイルを放ち、敵機を牽制するシーンが見られた。

■ ビーム・キャノン・ユニット

メガ・ビーム・キャノン本体とそれを稼働させるためのジェネレーター、本ユニット装着によって損なわれた機動性を補うためのスラスター等で構成されている。



A メガ・ビーム・キャノン

キャノンの砲口は2つあり、連装砲に近い構造となっている。砲口の両サイドには照準微調整用のアポジ・モーターも設置されている。

B 6連マイクロ・ミサイル・ポッド

MS本体と連結するためのアーム部には、左右1基ずつ3連装のマイクロ・ミサイルを内蔵。これは本機唯一の実体弾兵装である。

C エンジン・ユニット

本ユニットの後部がエンジン部で、ジェネレーターと推進用のスラスターを内蔵している。

■ ビーム・キャノン・ユニット装備時（使用時）

ユニット装着状態でメガ・ビーム・キャノンを使用しない時には、キャノン部分を機体後部へ折り畳む。この状態でユニットは機体の動きに干渉しない。

● ジョイント部分

キャノン使用形態は、キャノン・フォームと呼ばれる。ユニットのヘッドアップディスプレイが展開、統身模元のグリップをマニピュレーターで掴み射撃を行う。

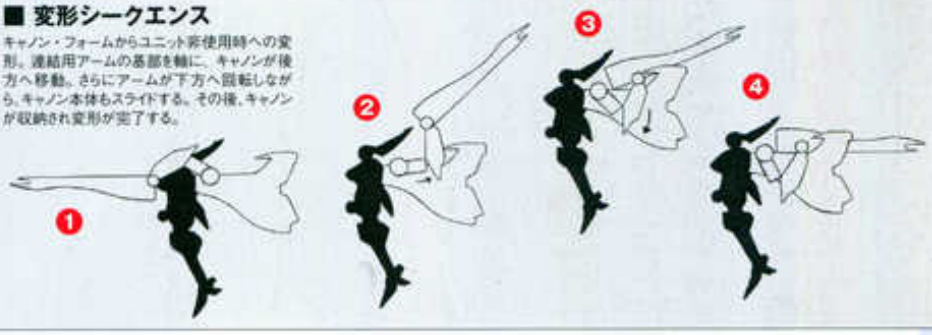
MS本体背面に設けられたユニットとの連結部と同形状のジョイント部分。ユニットとはこの箇所のみで合体する。

■ ビーム・キャノン・ユニット装備時（非使用時）

ユニット背面には大型スラスターを搭載。ユニット装着時には、このスラスターがメイン推進機関として機能する。

■ 変形シークエンス

キャノン・フォームからユニット非使用時への変形。連結用アームの基部を軸に、キャノンが後方へ移動。さらにアームが下方へ回転しながら、キャノン本体もスライドする。その後、キャノンが収納され変形が完了する。



©創通・サンライズ

EMS-10

ヅダ
ZUDAH

ZEON

プロパガンダという泥にまみれた試作MS、その功績と罪過

ジオン公国軍製のMSの中でも特に謎の多い機体であるEMS-10 ヅダは、U.C.0079、公国軍による大々的な喧伝により一躍脚光を浴びることとなった。その内容は、「MS-06 ザクIIを凌駕する性能の新型MSが完成した」というもので、国威発揚と共に地球連邦軍のMS開発計画に影響を与えることを目的としていた。だが、それは公国軍上層部が画策した喧伝作戦に、開発を行ったZIMMAD（ツィマット）社が荷担して生み出された欺瞞であった。彼らはかつてMS-05B ザクIとの制式化競争に敗れたEMS-04（の改修型）を新鋭機と偽っており、その事実を連邦軍の逆プロパガンダによって暴露された本機は、不運にも醜聞にまみれることとなったのである。

なお本機は、ZEONIC（ジオニック）社のMS-05Bを遥かに凌駕する空間機動性を有していた。事実、制式化競争において爆発事故を起こすまで、本機は充分な優位性を示していたと言われている。その新型エンジンの技術が後に制式採用されたMS-09 ドム、MS-09R リック・ドムの基礎になっている点から見ても、正攻法でEMS-10の改良が行われていれば、他のMS同様に宇宙世紀に名を残す機体となったのかもしれない。

関連ファイル

MS-05B ザクI	FG-01-07
モニク・キャディラック	IGL-02-02
ジャン・リュック・デュバル	IGL-02-08
ジオン公国系の軍事企業	IGL-03-10

FILE PREVIEW
FG-01-07 MS-05B ザクI

ZEONIC社が開発した人類史上初の実戦用MS。汎用性に富んだ機体として開発された本機がEMS-04とのトライアルに勝利し、公国軍主力MSとして制式採用された。

開発経緯　機動性向上を重視した設計とEMS-10へと繋がった開発計画

EMS-10の前身であるEMS-04は、U.C.0071に公国軍が着手した新兵器開発が基点となっている。ミノフスキー粒子散布環境下での軍事用汎用MSの開発は、ZEONIC社、ZIMMAD社に委託された。ZIMMAD社は、機動性向上を重視した設計を行い、新たな方式による単発型エンジン・システムを開発。大推力化を図った試作エンジンは「水星」と名付けられた。EMS-04にはより完成度を高めた「木星」が搭載されていたが、その驚異的なエンジンのパワーにEMS-04のフレームは耐えることができなかった。その結果が、U.C.0075初頭に行われた公的飛行試験時に発生した、機体の空中分解事故に繋がることになる。この事故に加え、競合開発していたZEONIC社のMS-05BがEMS-04の半分に近いコストで生産可能な点も加味され、結果としてEMS-04の採用は見送られることになった。

しかし、EMS-04の開発計画が中止となったわけではなく、引き続き同機の改良は続けられていた。その後、ZIMMAD社が宇宙用に開発したMS-09 ドムが搭載した「土星」エンジンを転用し、EMS-10として再生させるべく開発計画は再起を果たしたのである。しかし、同機は最大出力時の機体強度の問題が解決されないままプロパガンダに利用されることとなり、その真実は第603技術試験隊における最終評価試験において明るみに出る。

地球連邦軍が開発中のMSでは抗えない新型MS、という触れ込みで登場した機体だが、その真実はプロパガンダに利用された改修機であった。

■ EMS-10（1番機）／6面図

EMS-04から各部装甲やランドセルの形状などが変更されているが、大出力高機動のコンセプトと最身の機体構造に変化はなかった。

Top

Bottom

Front

Rear

Right

Left

■ 新型推進システム「土星」エンジン

先にも述べた通り、EMS-10に搭載された推進システムは新規開発されたものではなく、MS-09（およびMS-09R）に搭載されたことで高い評価を得た新型エンジン・システムであったと言われている。このエンジンはEMS-04に搭載されていた「木星」エンジンの改良型で、機体を推進させる原子や分子の噴射効率が向上し、短時間で200m/秒の加減速を可能としたものである。しかし一部では、その高推力は重MSであるドムの頑強な機体構造だからこそ耐えられたのではないかという見方があり、さらにはEMS-10に搭載されていた推進システムがMS-09らとまったく同じ「土星」エンジンであったかも疑問視されている。

試験機体　第603技術試験隊に配備された4機のEMS-10

U.C.0079.10、第603技術試験隊が運用する試験支援艦ヨーツンヘイムに、評価試験用のEMS-10が4機配備された（試験には1番機から3番機までの3機が使用され、残りの1機は予備機だった）。各機体は頭部形状や迷彩塗装のパターン、携行武装に違いがあったものの、基本的には同型のものであり、実戦仕様の装備が施されていた。

10月24日に評価試験の初期過程を終えたEMS-10は、11月9日に対艦戦闘試験を実施。この試験において、3番機が空中分解事故を起こしてしまう。事故のプロセスはU.C.0075の試験におけるEMS-04の空中分解と酷似しており、第603技術試験隊は試験中止の判断を下した。だがその直後、オデッサから撤退する友軍部隊の回収作戦に参加することとなったヨーツンヘイムは、試験再開の名目でEMS-10を戦闘に投入。その戦闘の最中、敵MSを救助地点から引き離すべく加速した1番機もまた、加速限界を超えて空中分解した。なお、この戦闘をもって評価試験は終了したが、2番機と予備機は引き続き第603技術試験隊で運用されることとなった。

評価試験を再開するという名目で、オデッサから撤退する友軍の救助作戦に参加。敵機との交戦時には高い機動性を発揮した。

評価試験終了によって残された2機のEMS-10は、その後ヨーツンヘイムに残され、艦載機として終戦まで使用された。

1番機（指揮官機）

■ SPEC

機体No	01
担当パイロット	ジャン・リュック・デュバル少佐
搭載兵装	120mmザク・マシンガン（予備弾倉×1）／ヒート・ホーク／シュツルム・ファウスト

頭部にブレード・アンテナを配置。モノアイレールの形状は上方視界を確保できる十字型となっている。シールドの迷彩色はベース色のブルー／濃紺／白の3色で分けられている。

2番機

■ SPEC

機体No	02
担当パイロット	ヒデト・ワシヤ中尉
搭載兵装	ザク・バズーカ／120mmザク・マシンガン（予備弾倉×1）

頭部のシールド形状は、1番機とは異なる線のスリットが入っていないタイプ。シールドの迷彩色は濃紺のみで塗装されている。ワシヤ中尉が搭乗し、終戦まで活躍した。

3番機

■ SPEC

機体No	03
担当パイロット	オッチナン・シェル中尉
搭載兵装	120mmザク・マシンガン（予備弾倉×1）

シールドの迷彩パターンが異なる以外は、頭部シールド形状などが2番機と同じ仕様となっている。対艦戦闘試験にて空中分解事故を起こし、早々に機体が失われてしまった。

予備機

■ SPEC

機体No	04
担当パイロット	モニク・キャディラック特務大尉
搭載兵装	120mmザク・マシンガン（予備弾倉×1）／ヒート・ホーク

頭部ユニットにブレード・アンテナがない点以外は、1番機と同じ形状となっている。また、機体に迷彩塗装は施されておらず、ベースカラーのみとなっている。

総　評　数々の問題を残した幻の試作機

EMS-04から、EMS-10へと型式番号を変えながらも、ツダは運命に翻弄された機体だった。ZEONIC社の妨害があったのではないかと言われた空中分解事故から始まり、公国軍上層部によるプロパガンダに利用された経緯、そして逆プロパガンダによって明らかにされた未改良機という事実。それらの結果として実像が明らかではない「ゴーストファイター」という評価が定着してしまうことになった。

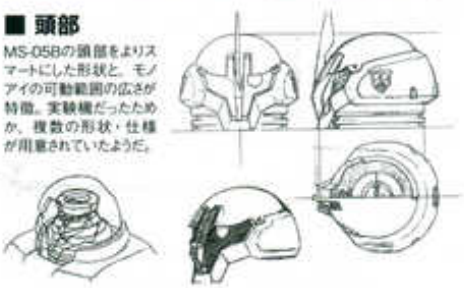
初の実戦となった地球軌道上での友軍救出作戦において、EMS-10はRB-79 ボールとRGM-79 ジムの各二個小隊を全滅させるという性能を発揮した。無理な運用を行わなければ、充分に活躍できることを実証した本機だが、それも3度に及ぶ空中分解事故と醜聞にまみれた汚名をすすぐ材料とはならなかった。不遇のゴーストファイター――それが、ツダという機体を的確に表した言葉と言えよう。

EMS-10のスペックが喧伝された通りであれば、U.C.0079当時のMSでは追随不可能な大推力を発揮することが可能な高性能な機体だった。

エンジン出力にさえ気を配れば、圧倒的な機動性を確保できた。だが、戦闘中にその判断と処理が行えるパイロットはごく少数であろう。

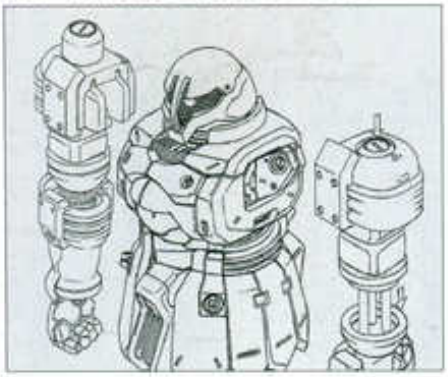
■ 頭部

MS-05Bの頭部をよりスマートにした形状と、モノアイの可動範囲の広さが特徴。実験機だったためか、複数の形状・仕様が用意されていたようだ。



■ 分解、整備中のEMS-10

腕部はフレームごと下部にスライドする機構を搭載。これによって、脚部マウント・ラッチの武装をスムーズに装備することができた。



MORE INFO!

デュバル少佐が担った役割

ツダという機体と最も深く関わりを持った人物のひとりが、長年ZIMMAD社のテストパイロットを務めていたジャン・リュック・デュバル少佐である。彼はEMS-04の開発には初期段階から関わり、機体の危険性を熟知しながらもEMS-10のテストパイロットを務めている。

一方で彼は、公国軍によるプロパガンダ作戦の真相を知る人物と目されている。EMS-10の機体特性と危険性を熟知していたからこそ、評価試験では機体の限界値を超えないよう操縦することも可能であった。ツダのポテンシャルを極限まで活かせる知識と技量、そして人々から尊敬されるような聡明な彼のイメージこそが、プロパガンダ作戦に利用されてしまった理由なのかもしれない。

■ ジャン・リュック・デュバル

ZIMMAD社のテストパイロットを12年務め、その後に公国軍の士官となった人物。そのパイロットとしての技量もさることながら、リーダーとしての優秀さもあって周囲から尊敬を集めていた。

MS of THE SLEEVES ③

「袖付き」のMS ③

AMX-008

ガ・ゾウム
GA-ZOWMN

SPEC -AMX-008 GA-ZOWMN-

全高	18.0m
重量	31.6t
ジェネレーター出力	1,840kW
スラスター推力	92,280kg
装甲材質	ガンダリウム合金
武装	ハイパー・ナックルバスター／ビーム・ガン兼ビーム・サーベル×2 他
所属	「袖付き」
搭乗者	「袖付き」兵士

SPEC -AMX-102 ZSSA-

全高	15.0m
重量	23.7t
ジェネレーター出力	1,820kW
スラスター推力	120,400kg
装甲材質	ガンダリウム合金
武装	ビーム・ライフル／ミサイル・ポッド 他
所属	「袖付き」
搭乗者	「袖付き」兵士

COMPARISON CHART

COLOR

AMX-008 GA-ZOWMN
DARK BLUE / RED / YELLOW

AMX-102 ZSSA
GREEN / RED / BLACK

強襲に特化した可変機

右腕部
ハイパー・ナックルバスターを主武装として装備する。従来のガザ・シリーズはジェネレーター直結式の火器を採用していたが、本武装は運用性を高めるため、Eパック型に改良されている。

変形機構
戦闘爆撃機としての機能を有するAMX-008は、爆撃を効率良く行えるMA形態への変形機構を有する。変形時は爆撃機のようなフォルムとなる。

AMX-102

ズサ
ZSSA

ブースター・ポッド
背部に設置された、大出力スラスターとミサイル・ポッド付きのオプション兵装。これを装備して出撃するのが本機の基本的な運用法である。

▶「袖付き」仕様

機体構造
型式番号が変更されていないことからも、機体の基本構造自体は開発時（U.C.0088）から変更されていないのがわかる。一方で、カラーリングやエングレーヴの追加が行われた。

砲撃力に長けた支援機

U.C.0096でも運用された、ネオ・ジオンの火力重視型MS

ネオ・ジオン残党軍「袖付き」は、資源衛星バラオを拠点として連邦軍／連邦政府に抵抗を続けていた。彼らは、『シャアの反乱』以降に開発／実戦投入されたAMS-129 ギラ・ズールを主力機として用いていたほか、アナハイム・エレクトロニクス社から強奪したMSN-06S シナンジュなど最新鋭機も保有していた。だが、その勢力規模から積極的な軍備の増強は難しく、ネオ・ジオンの旧式MSも大量に運用されていたのである。第一次ネオ・ジオン戦争期に開発されたAMX-008 ガ・ゾウム、AMX-102 ズサも、U.C.0096に勃発した『ラプラスの箱』を巡る争乱に投入されている。

両機とも、その基本構造は開発時と変化がなく、型式番号も当時のものが継承されている。しかしながら、時代や役割に応じた若干の仕様変更／改修が行われていたようで、AMX-102の「袖付き」仕様では、他のMSに装備された兵器の流用が図られていた。両機とも戦局を一変させるほどの能力は持たなかったが、AMX-008は対艦／対要塞用の爆撃機として、AMX-102は後方支援機として運用されたことで、連邦軍と相対することとなった「袖付き」の戦力を支えたのは事実である。

関連ファイル

「袖付き」のMS ①	UC-01-16
「袖付き」のMS ②	UC-01-17A
AMX-008 ガ・ゾウム	ZZ-01-08
AMX-102 ズサ	ZZ-01-15

FILE PREVIEW
UC-01-16 「袖付き」のMS ①

ネオ・ジオン残党軍「袖付き」が運用したMS。ガザD、ギラ・ドーガ重武装仕様などが、若干の改修を経て戦場に投入された。

ガ・ゾウムの構造　対MS戦を可能とする高い総合性能

作業機械から戦闘用へと発展したガザ・シリーズの中でも、AMX-008は、対MS戦を想定した後発機である。AMX-006 ガザDなどが生産性を重視した結果、フレーム構造に脆弱性を残したのに対し、本機はそうした点を補うべく大幅な改修が図られ、ほぼ新設計機とも言える構造を有していた。加えて、ハイパー・ナックルバスターの火力や、爆撃機として機能するMA形態での機動力も非常に優れており、その総合性能はこれまでのガザ・シリーズを大きく凌ぐものとなったのである。本機がU.C.0096に勃発した「箱」を巡る争乱に運用されたのも、総合性能の高さが評価されてのことと言える。

大型のスラスターを左右に3基ずつ備え、高い機動性を支えていた。また、バックパック自体がAMBAC装置としても機能した。

手首部分に「袖付き」所属機の装飾が施されたAMX-008は、「箱」を巡る争乱の最終決戦に投入され、ネェル・アーガマらと交戦した。

■ 飛行形態

肩部に有したウェポン・ボックスが機体前方に展開されたMA形態。爆撃機らしく、下方にミサイルを発射できる仕様であった。

ハイバー・ナックルバスター

MA形態でも機体上部に設置され、使用することができる大型火器。一撃でMSを破壊できる威力を有した。

後方部

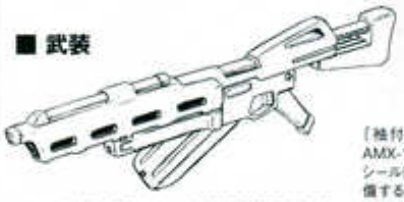
脚部ユニットが2つに分割され、スタビライザー兼バーニアとして機能するのが特徴。バックパックはウイングとして使用できる。

ズサの構造　戦闘の幅を広げた武装の変更

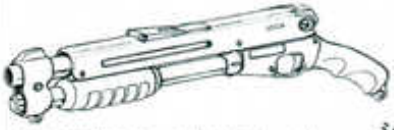
AMX-102は、第一次ネオ・ジオン戦争時において、後方支援機として開発された機体である。腕部や脚部をはじめ、機体各所に備えたミサイル群と、着脱が容易に行える推力強化装備「ブースター・ポッド」を特徴とする機体で、戦況に応じて装備を変更できる高い拡張性を有していた。「袖付き」でも、こうした機体の利点を活かし、AMS-119 ギラ・ドーガのシールドと、MS-18E ケンプファーのショットガンを装備した仕様が登場している。これにより、通常のタイプでは苦手としていた近接戦闘にもスムーズに対応することが可能となり、本機の運用の幅はより広がったのである。

装備以外での変更はないが、「袖付き」仕様は、カラーリングが黄系統から緑系統へと一斉に改められているのも特徴となっていた。

■ 武装



AMX-102に流用された、中距離戦闘用の2連装ビーム・ライフル。グレネード・ランチャーを追加することも可能となっている。



MS-18Eに用意された、実体弾式のショットガン。威力はビーム・ライフルに比べて低いと見られるが、取り回しに優れているのが特徴である。

*AMX-102のブースター・ポッド装備時。脚部に備えられたスラスターも合わせ、高い加速力を獲得していた。

■「袖付き」仕様

「袖付き」で運用されたAMX-102の1タイプで、シールドとショットガンを装備する。ブースター・ポッドはオミットされていた。

シールド

AMS-119に装備されたシールドを流用。近接戦闘時の防御力を高めることに成功している。

AMX-101E シュツルム・ガルス SCHUZRUM-GALLUSS

軽量化が施されたガルスJの派生機

ビランチャが搭乗した機体が、ネェル・アーガマに取り付くことに成功。だが、フルアーマー・ユニコーンガンダムから切り離されたブースターによって弾き飛ばされた。

■ チェーン・マイン

MS-18E ケンプファー用のチェーン・マインを背部に設置。近接戦闘時にマニピュレーターで掴み、敵機にぶつけることができた。

ナックル・シールド

両肩部の側面に設置された攻防兼用兵器。攻撃時にはシールド本体が腕部に移行し、スパイクを活かした格闘戦が可能となった。

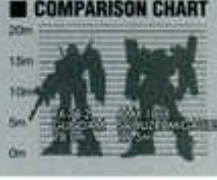
スパイク・シールド（攻撃時）

スパイク・シールドを腕部へと装着し、格闘兵器として用いた状態。先端に取り付けられたスパイクで敵機装甲にダメージを与えた。

■ SPEC

全高	19.5m
重量	24.9t
ジェネレーター出力	2,840kW
スラスター推力	——
装甲材質	ガンダリウム合金
武装	スパイク・シールド×2／チェーン・マイン 他
所属	「袖付き」
搭乗者	ビランチャ

■ COMPARISON CHART



■ COLOR

強襲用途に特化した格闘用MS

第一次ネオ・ジオン戦争に運用されたAMX-101 ガルスJの派生機として、「箱」を巡る争乱に投入された機体がAMX-101E シュツルム・ガルスである。原型機であるAMX-101は重装甲を特徴とする機体であったが、装甲や5連装フィンガーランチャーのオミット、航行用推進装置（ブースター）のオプション化など、大幅な改修作業を経たことで50%以上の軽量化に成功。これにより、格闘戦における高い運動性能を実現し、目標物への速やかな接近と攻撃を行うことが可能となった。「箱」を巡る争乱では、〈インダストリアル7〉宙域での最終決戦で運用され、ネェル・アーガマへの接近とその撃破を狙った。

AMX-102と共にネェル・アーガマへと接近した本機は、RGM-89De ジェガン（エコーズ仕様）と艦上で交戦した。

F90ⅡI

ガンダムF90Ⅱ
インターセプトタイプ
F90Ⅱ INTERCEPT

E.F.S.F.

迎撃・追撃用装備のF90Ⅱ

手持ち装備
拡散ビーム・ショットガン兼用のビーム・ランサーが主兵装。左腕搭載のフライト・シールドはサブ・フライト・システムとしても機能する。

脚部
腰から脚部を覆う形で、推力増加ユニットを搭載。このオプションにより、脚部だけで71,880kg(17,970kg×4)もの推力を発生する。

ロング・ライフル
長距離狙撃用の大型火器で、ビームと実体弾を撃ち分けることができる。ビームの有効射程は100km以上に達する。実体弾は、一度のみだが発射後に進路修正が可能だった。

センサー
バックパックにサーモ・スコープを、右肩に精密射撃用の複合センサーを増設した。F90Ⅱ搭載のバイオ・コンピューターとのリンクにより、スペック以上の性能を発揮できるようだ。

■ SPEC -F90ⅡI F90Ⅱ INTERCEPT-

全高	——(頭頂高:15.1m)
重量	9.7t(全備重量:29.6t)
ジェネレーター出力	4,150kW
スラスター推力	188,080kg
装甲材質	ガンダリウム合金セラミック複合材
武装	ビーム・ランサー/フライト・シールド搭載マシン・キャノン×2/バルカン砲×2/ビーム・サーベル
所属	地球連邦軍
搭乗者	ミノル・スズキ

■ SPEC -F90ⅡL F90Ⅱ LONG RANGE-

全高	——(頭頂高:15.1m)
重量	11.5t(全備重量:27.2t)
ジェネレーター出力	4,920kW
スラスター推力	109,980kg
装甲材質	ガンダリウム合金セラミック複合材
武装	ロング・ライフル/連装ミサイル・ランチャー×2/バルカン砲×2/ビーム・サーベル×2
所属	地球連邦軍
搭乗者	ナナ・タチバナ

■ COMPARISON CHART

■ COLOR

F90ⅡI F90Ⅱ INTERCEPT
BLUE WHITE RED

F90ⅡL F90Ⅱ LONG RANGE
BLUE WHITE GRAY

F90ⅡL

ガンダムF90Ⅱ
ロングレンジタイプ
F90Ⅱ LONG RANGE

E.F.S.F.

F90Ⅱの超長距離狙撃装備型

F90Ⅱと共にロールアウトした2種のオプション

F90Ⅱ ガンダムF90Ⅱに迎撃・追撃用のIタイプ・オプションを搭載した仕様がF90ⅡI ガンダムF90Ⅱインターセプトタイプ、長距離狙撃・攻撃用のLタイプ・オプションを装備した仕様がF90ⅡL ガンダムF90Ⅱロングレンジタイプである。Iタイプ、Lタイプの両オプションは、U.C.0121.10.28にF90Ⅱと共にロールアウトした。なお両オプションはF90Ⅱの専用装備ではなく、他のF90にも搭載可能であった。

F90ⅡIの実戦参加はなかったようだが、Iタイプ・オプション装備のF90(F90I)が木星帝国の「神の雷計画」を阻止すべく投入されたという。この機体はU.C.0136の時点で老朽化していたF90を改良すると共に、主兵装をビーム・ライフル兼用のショット・ランサーとした機体であり、核ミサイルも搭載した。サナリィのMSパイロット教官ミノル・スズキが搭乗している。

F90ⅡLはコスモ・バビロニア建国戦争に投入され、クロスボーン・バンガードと交戦したとの説がある。ナナ・タチバナに任されたF90ⅡLは長距離狙撃で戦果を挙げたものの、バイオ・コンピューターの調整不足から近接戦闘でシステムエラーを起こしている。

関連ファイル

F91 ガンダムF91	F91-01-04
F90 ガンダムF90	AGS-01-84
F90Ⅱ ガンダムF90Ⅱ	AGS-01-86
第二期MS	F91-03-05
フォーミュラ計画	F91-03-06
サナリィ	F91-03-15

FILE PREVIEW
AGS-01-86 F90Ⅱ ガンダムF90Ⅱ

大破したF90・2号機を修復/強化した機体。ジェネレーター出力とスラスター推力の強化のほか、新型のバイオ・コンピューターを搭載した。

Iタイプの機体構造／武装 「手持ち装備」に集約された機能

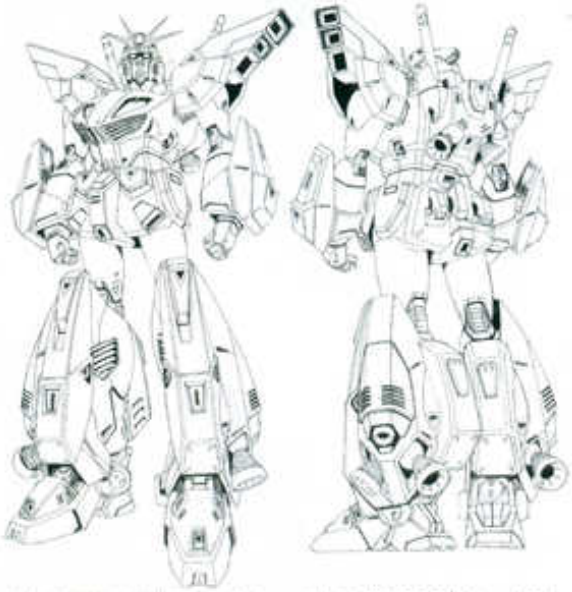
Iタイプ・オプションは爆発的な加速力をもって敵機を迎撃・追撃するための装備で、F90に高機動型MSとしての特性を付与する。本仕様が特殊だったのは、大推力バックパックを搭載する一般的な高機動型MSと異なり、手持ち装備に機動力の多くを依存している点にあった。

その手持ち装備がフライト・シールドである。MSの全高に匹敵するサイズを持つフライト・シールドは、それ自体が60,800kgの推進力を持つサブ・フライト・システムで、大気圏突入能力（未試験）すら与えられた。フライト・シールド使用時の大気圏内移動速度は時速1,800km、ホバー移動時の対地速度は時速700km前後に達する。

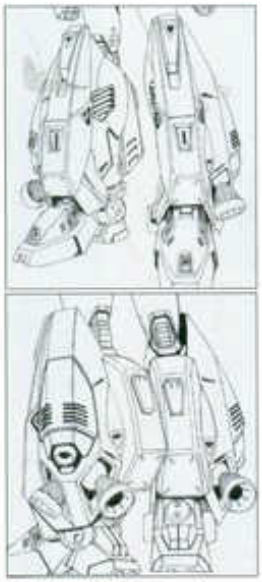
もうひとつの手持ち装備であるビーム・ランサーにもバーニア・スラスターが設置されており、本仕様の機動・運動性を補助していた。

フライト・シールドはフライング・アーマー式サブ・フライト・システムの機能を持ち、大気圏突入を含む広範な迎撃・追撃を可能とする。

■ 正面・背面図



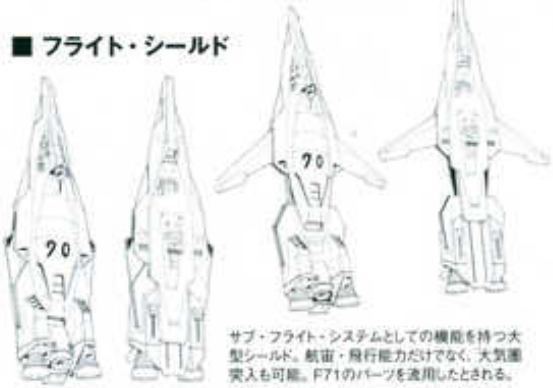
脚部に追加された推力増加ユニット以外、ハードポイント用拡張装備を施さない。攻撃力や機動性を手持ち装備に依存したためと思われ、MS本来の汎用性も維持されている。



■ 推力増加ユニット

脚部に外装する高機動装置で、本仕様唯一のハードポイント用装備。推進器とプロペラント・タンクが一体化している。

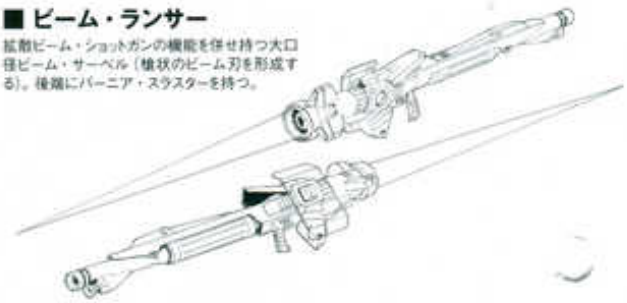
■ フライト・シールド



サブ・フライト・システムとしての機能を持つ大型シールド。航宙・飛行能力だけでなく、大気圏突入も可能。F71のパーツを流用したとされる。

■ ビーム・ランサー

拡散ビーム・ショットガンの機能を併せ持つ大口径ビーム・サーベル（槍状のビーム刃を形成する）。後端にバーニア・スラスターを持つ。



Lタイプの機体構造／武装 ビーム・実体弾併用式の長距離火器

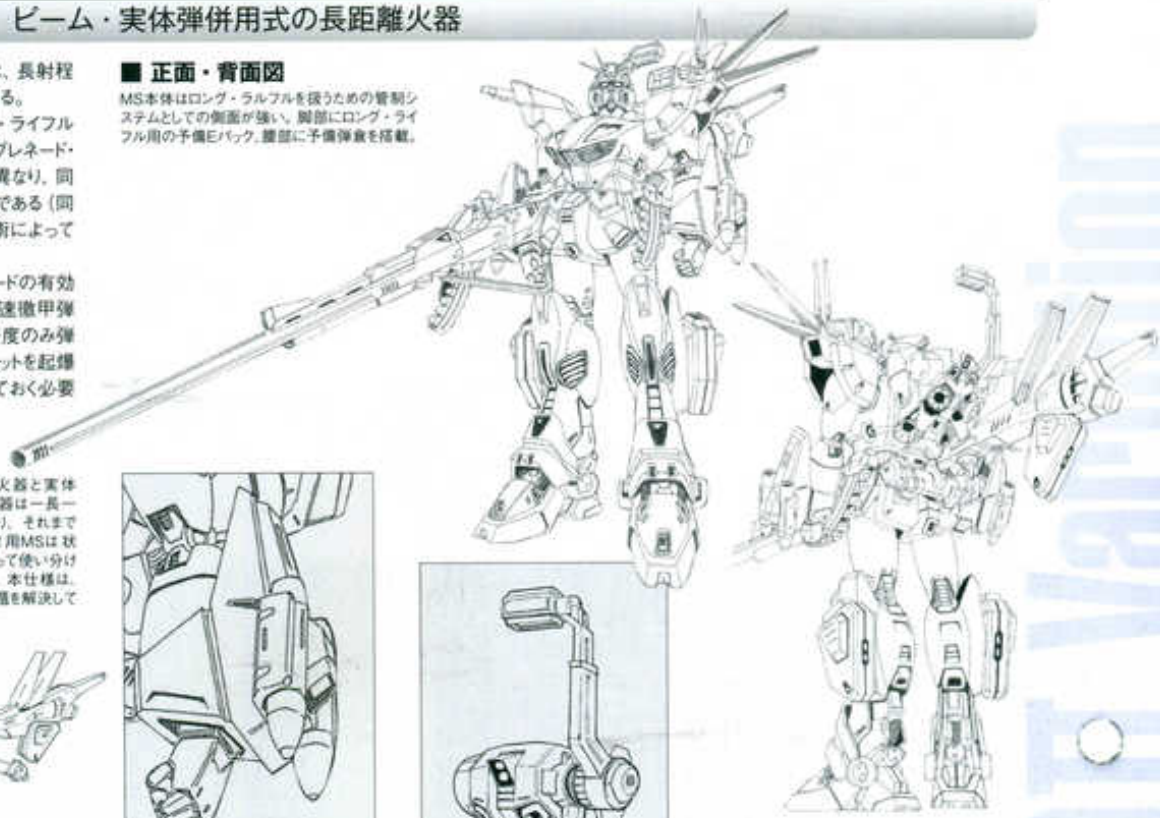
長距離狙撃・攻撃用のLタイプ・オプションは、長射程の大型火器とセンサー群を中心に構成されている。

中でも特異な装備がメインウェポンのロング・ライフルで、ビームと実体弾を撃ち分けることができる。グレネード・ランチャーを並列装備するビーム・ライフルとは異なり、同じ砲システムでビームも実体弾も発射可能なのである（同時発射は不可）。銃身内のIフィールド形成技術によって実現された兵装だった。

狙撃用火器としての性能も高く、ビーム・モードの有効射程は100kmを超える。実体弾の120mm高速徹甲弾は爆発式バーニア・ペレットを用いることで、一度のみ弾道を変更できる。なお、爆発式バーニア・ペレットを起爆するには、弾頭内の記憶チップに進路を入力しておく必要があり、発射後の変更は不可能であった。

■ 正面・背面図

MS本体はロング・ラルフルを扱うための管制システムとしての側面が強い。脚部にロング・ライフル用の予備Eパック、腰部に予備弾倉を搭載。



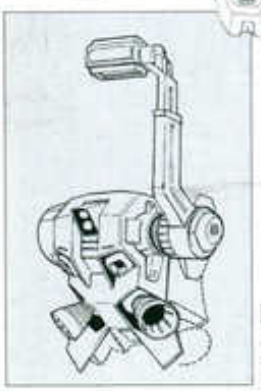
ビーム火器と実体弾式火器は一長一短があり、それまでの狙撃用MSは状況によって使い分けていた。本仕様は、その問題を解決している。

■ ロング・ライフル

ビームと実体弾を使い分けることができる長射程火器。全長は20m級と極めて長大。基部が腰部ラッチに固定されるため、サイズの割に携行性は低くないうえ、射撃時の安定性も高いようである。

■ ミサイル・ランチャー

左前腕の連装ミサイル。中距離用の兵装と思われる。正面方向にしか撃てないロング・ライフルと異なり、射界が広い。



■ 背部増加装備

バックパックのハード・ポイントに接続する増加装備。サーモ・センサーと追加スラスター・パックで構成される。索敵・照準を補助しつつ、大重量化した機体に充分な機動性を与える。

空中レーダー基地にして指揮所たるディン派生型

AME-WACO1 早期警戒・空中指揮型ディン特殊電子戦仕様

DINN TYPE EARLY-WARNING COMMANDER

Z.A.F.T.

■ SPEC

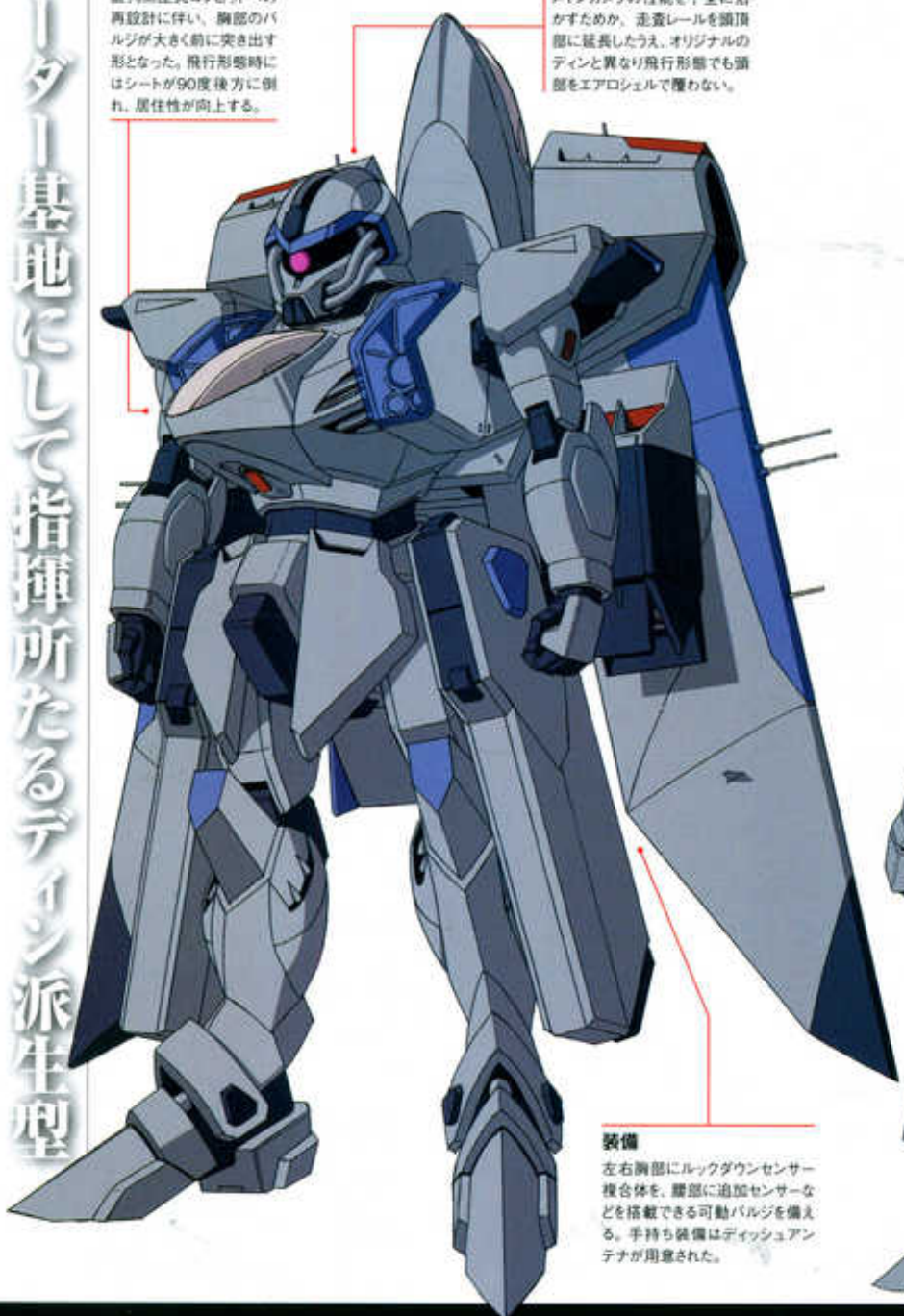
全高	——
重量	——
ジェネレーター出力	——
スラスター推力	——
装甲材質	——
武装	——
所属	ザフト
搭乗者	——

■ COMPARISON CHART

■ COLOR

胸部
直列三座式コクピットへの再設計に伴い、胸部のバルジが大きく前に突き出す形となった。飛行形態時にはシートが90度後方に倒れ、居住性が向上する。

頭部
メインカメラの性能を十全に活かすためか、走査レールを頭頂部に延長したうえ、オリジナルのディンと異なり飛行形態でも頭部をエアロシェルで覆わない。



背部
原型機同様、背部は有翼式の飛行システムが占めている。主翼には高揚力装置とジェットエンジンが、エアロシェルには垂直尾翼が増設された。

装備
左右胸部にルックダウンセンサー複合体を、腰部に追加センサーなどを搭載できる可動バルジを備える。手持ち装備はディッシュアンテナが用意された。

戦闘機型の航空MSから派生した空中管制MS

航空MS、AMF-101 ディンのバリエーションのうち、早期警戒や空中管制などに特化したタイプがAME-WACO1 早期警戒・空中式型ディン特殊電子戦仕様である（以下、機体名ではなく型式番号で記述）。戦闘機的なMSだったオリジナルのディンと異なり、空中早期警戒管制機とほぼ同等の位置付けの機体といえる。

空中早期警戒管制機とは、高高度飛行能力と高性能センサーを利用して早期に敵機を発見（早期警戒）すると共に、警報の発令、脅威度の分析、迎撃作戦の指揮および管制を行う航空機である。外見は、大型航空機に円盤状の大開口レーダーを搭載したものが多い（小型機に円盤状レーダーを搭載した機体は、ほとんどが指揮管制能力を持たない早期警戒機）。戦闘機もレーダーや脅威度分析用コンピューターを備えるが、その能力は空中早期警戒管制機とは比較にならない。

AME-WACO1の主任務は空中早期警戒管制機と同様で、早期警戒と空中からの戦闘指揮を行う。機体サイズの問題から、本来の空中早期警戒管制機ほどの能力はないようだが、ディンなどに随伴可能な機動性を持つ他、MSゆえの柔軟な運用性は高く評価される。

関連ファイル

AMF-101 ディン	SEED-01-18
AMRF-101C AWACSディン 他	DES-01-10B
ZGMF/TAR-X1 ジン戦術航空偵察タイプ 他	AGS-01-143
エドワード・ハレルソン 他	AGS-02-06
C.E.のMS	SEED-03-17
プラントとザフト	SEED-03-35

FILE PREVIEW

DES-01-10B AMRF-101C AWACSディン 他

ディンのバリエーション。レドームを新たに装備し、空中警戒に特化した機体となっており、C.E.73における戦乱においても活躍した。

機体構造／武装　センサー系の強化と飛行システムの改良

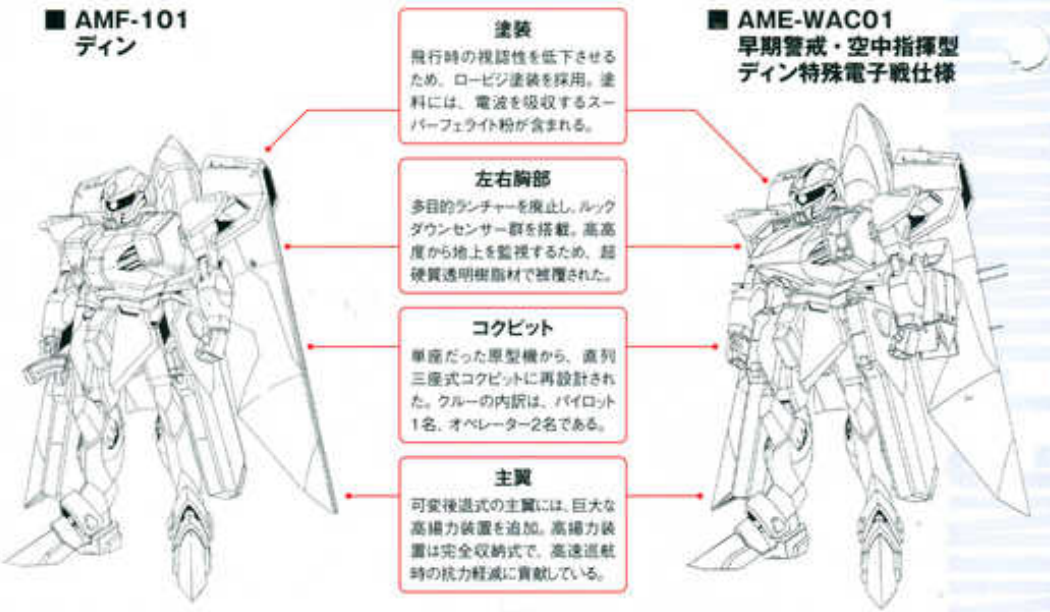
ディンからAME-WAC01への改装点は、大きく分けて4つに分類できる。武装の撤去、センサー系の強化、飛行システムの改良、コクピットの再設計である。

本機は戦闘を想定していないため、手持ち武器を含めた武装を廃止し、代わりにセンサー系を増設・強化している。手持ち式のディッシュアンテナの採用、左右胸部へのルックダウンセンサーの複合体の内蔵などが該当する。

両腰部の可動バルジは多目的ストレージとされ、追加センサーやECMポッド等の電子機器の搭載例が多いが、任務・作戦によってはフレア弾やニュートロンジャマーのディスペンサーを搭載する。離陸設備が未整備の場所から発進するためのラトー（RATO：ロケット補助離陸）システムの装備に用いることもある。

背部の飛行システムには、航続距離重視の改造が加えられた。主翼への高揚力装置の追加、エアロシェル中央への収納式安定板（垂直尾翼）の増設、主翼下の可変式ピボットに懸架されたジェットエンジンなどがそれで、亜音速域の最高飛行速度はディンを大きく上回った。なお、エアロシェルが頭部を覆う機構は廃止されている。

C.E.70には制式採用がされており、ディン2機と編隊を組んでの哨戒飛行などが行われていた。有事の際は手持ちのディッシュアンテナを投棄し、身軽になって行動する。



C.E. Case File　コズミック・イラ 事件ファイル

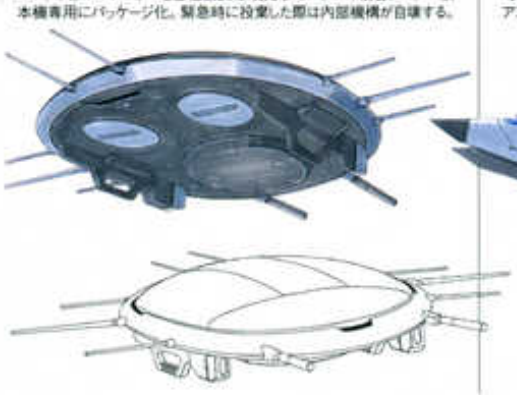
「切り裂き」伝説の発端

南アメリカ合衆国のエドワード・ハレルソン中尉は、戦闘機スピアヘッドの主翼でAME-WAC01を「切断」し、撃墜した記録を持つ。このエピソードが「切り裂きエド」の異名の発端になったという。

「切り裂きエド」の異名が広まる契機となったのは、AME-WAC01撃墜事件後の第3次ビクトリア攻防戦。その際の乗機はソードカラミティであった。

■ ディッシュアンテナ

マルチフェーズ・レーダーと各種波長帯域光学センサーの複合システムを、本機専用にパッケージ化。緊急時に投棄した際は内部機構が自壊する。



■ 飛行形態

可変後退式の主翼と高揚力装置を展開。空力装置を兼ねるディッシュアンテナの搭載位置の都合上、左右胸部のセンサーは使えない。

MORE INFO!　索敵性能に特化したザフトのMS

AME-WAC01以外にも、ザフトは情報収集能力に長けたMSの開発に積極的である。その多くは偵察用であり、ジンをベースとしたジン長距離強行偵察複座型に始まり、陸戦MSのバクゥを原型とするバクゥ戦術偵察タイプなど、様々な機体のバリエーションとして開発された。

この背景にはMSを重視するザフトの方針があると考えられるが、それ以上にMSの汎用性と生存性が高いことの証左となっている。実際、偵察用MSは想定された任務で充分な成果を挙げており、ザフトは今後も新型の偵察用MSを開発していくことは間違いない。ただし完全な新設計機ではなく、これまでのような既存のMSの改造機に限られると思われる。

ディン系の情報収集用MSとしては、AWACSディンがある。名称こそAWACSだが、AME-WAC01の方が高性能だろう。

他の偵察機や情報収集艦を持つためか、地球連合軍は偵察用MSの採用に非積極的。オーブ軍は可変MSムラサメの偵察型を採用した。

■ ZGMF-LRR704B ジン長距離強行偵察複座型

ジンをベースに開発された偵察用MS。パイロットの他に、センサーオペレーターが搭乗する。第1次連合・プラント大戦後も運用され続け、C.E.73には地球連合軍の核攻撃部隊を発見している。

■ ZGMF/TAR-X1 ジン戦術航空偵察タイプ

ジンに飛行能力を付与した大気圏内用の戦域威力偵察機。バクゥ戦術偵察タイプと同じく、実質的には新機能評価用実戦テストベッドである。ディンに繋がる過渡期的機体でもあった。

カテジナ・ルース
Katejina Loos

PROFILE
年齢　17歳
所属　ザンスカール帝国軍
階級　——
出身　ウーイッグ
技能　MS操縦

ザンスカール帝国に身を投じ戦場に己の居場所を探した少女

カテジナ・ルースは、他者に依存することで自己を保とうとした。だが、強過ぎる自己防衛の意識は激しい攻撃性に繋がり、多くの人間を傷付けてしまう。それはカテジナの弱さであり、戦乱の果てにその代償を支払うことになるのである。

カテジナが依存の対象としたのは、クロノクル・アシャーであり、彼が後ろ盾とするザンスカール帝国のマリア主義であった。ザンスカール戦争初期にウーイッグで被災し、リガ・ミリティアに同行する中でクロノクルに出会ったカテジナは、やがてベスパに身を投じることとなる。ウッソ・エヴィンのような子供を戦いに巻き込むリガ・ミリティアへの嫌悪感が、クロノクルとの距離を縮めていったのである。そして、パイロットとして戦場に臨み、そこに自らの感情を発露していくのだった。

クロノクルを支えるためにベスパのパイロットとなったカテジナは、戦士としての才能を開花させていく。同時に、自分を否定する者に対する凶暴さを露わにするのだった。

ザンスカール戦争の中で、カテジナの心は次第にささくれ立ち、狂気に蝕まれていった。その果てにカテジナが直面したのは、救いのない現実と自らの破滅だったのである。

CHARACTER ——— その人格

ベスパに身を投じてからのカテジナは、生来の勝気な性格に加えて偏執的な面が強くなり、ウッソに対して私怨をぶつけることも多かった。また、戦争末期には残忍さも増し、ウッソを苦しめるためだけにネネカ隊を捨て駒にしている。

ネネカ隊に模同然の格好をさせ、V2ガンダムに肉弾戦を挑ませた。ウッソに心理的なダメージを与えるために、彼女たちを利用したのである。

RELATIONS

身を委ねた男のために周囲を傷付けた少女の末路

MAIN MS

ZM-S24G
ゲドラフ
ベスパが開発した汎用MS。アインラッドとの連携を前提とし、優れた性能を誇った。モトラッド戦隊の主力として運用され、カテジナも乗機として用いた。

ZMT-S33S
ゴトラタン
戦争末期に開発されたベスパの試作MS。ビーム・キャノン・ユニットによる砲戦能力を特徴とする機体で、エンジェル・ハイロック攻防戦においてカテジナが搭乗した。

関連ファイル

ZM-S24G ゲドラフ	V-01-25
ZMT-S33S ゴトラタン	V-01-34
ウッソ・エヴィン	V-02-01
クロノクル・アシャー	V-02-24
AH作戦 ～エンジェル・ハイロック始動～	V-03-08
エンジェル・ハイロックの決戦	V-03-09

FILE PREVIEW
V-02-24　クロノクル・アシャー

ザンスカール帝国の女王マリアの弟。その立場に重荷とコンプレックスを感じながらも、帝国を実力で統べようと野心を抱く。

クロノクルはあたしに優しかったんだ、それを！

カテジナはパイロットとして頭角を現し、モトラッド艦隊の一員として地球クリーン作戦に参加する。その中でリガ・ミリティアとの戦いの矢面に立ち、ウッソとも刃を交えたカテジナは、自分にしつこく付きまとうウッソに苛立ちを募らせ、憎しみを向けるようになる。その激しい感情は、カテジナを好戦的な戦士へと変貌させていった。そうして戦いにのめり込んだカテジナは、クロノクルの懐刀として多くの戦果を挙げると同時に、自らを正当化するため彼への依存を強めていくのだった。

一方、戦場は地上から再び宇宙へと移り、カテジナはクロノクルと共にエンジェル・ハイロゥ防衛の任に就いた。様々な思惑が入り乱れる戦場で、カテジナは狂気に囚われていく。強さを示せずにいるクロノクルに対する焦燥感や、自分たちを否定するウッソたちへの憤りもあったのだろう。だがそれ以上に、クロノクルに依存した自分を守るために、カテジナは狂気に心を委ねたのである。その感情はクロノクルの死によって加速し、激しい悪意となってウッソに向けられた。しかし、ウッソを守る多くの意思に阻まれ、カテジナはその憎悪ごとエンジェル・ハイロゥの崩壊に呑み込まれたのだった……。

すべての戦いが終わったのち、カテジナは変わり果てた姿でカサレリアに辿り着く。視力と記憶、そして寄る辺を失ったその姿は、感情のままに多くの人間を傷付けた報いだったのかもしれない。

足跡 戦争後期の鬼気迫る戦い振り

首都攻防戦での功績を認められてモトラッド艦隊に配属されたカテジナは、当初はルペ・シノの下でパイロットとしての経験を積んだ。しかし、月のネオ・カタルヘナでミューラ・ミゲルを捕虜とする戦功を挙げ、艦隊が地球に降下する頃には小隊を率いるようになる。さらに、アンダーフックではシャクティ・カリンを捕らえ、作戦開始後はクロノクルの乗艦アドラステアのMS部隊の中核を担ってリガ・ミリティアを抑える働きを見せている。

カテジナはその後、アドラステア艦隊の一員としてエンジェル・ハイロゥ作戦に参加し、フォンセ・カガチらを放逐しようとしたクロノクルを補佐した。攻防戦終盤にはゴトラタンを駆って出撃し、コニー・フランシスをはじめとするシュラク隊の主要メンバーやオデロ・ヘンリークを戦死させる苛烈な奮闘を見せる。しかし、ウッソとの戦いに敗れ、すべてを失うこととなった。

能力 クロノクルを支えたカテジナの手腕

ベスパのパイロットとなったカテジナは、実戦の中で腕を上げていった。「エネルギーパックもミサイルも人一倍使う」というアドラステア整備兵の言葉は、カテジナの果敢な戦い振りを表していたと言える。また、戦争末期には戦略的な観察眼も鍛えられていたようであり、姉の仇討ちに逸るクロノクルに対し冷静な意見で諫める場面も見られた。

クロノクルの側近として苦言を呈する場面もあった。また、強化処置が施されていたとも言われ、シャクティの祈りに生理的な嫌悪感を見せている。

Ⓐベスパ所属時の制服姿。一般的な士官用の制服だが、階級は与えられていなかった（戦争末期には大尉待遇だったとも言われる）。
Ⓑベスパに身を投じたのちは、ロングヘアーを結い上げていた。着用したノーマルスーツは一般的なものである。
Ⓒ大気圏突入後にアンダーフックのマリア主義者たちに保護された際の服装。ノーマルスーツの上にツナギとフードを着用した。
Ⓓ戦争終結後にカサレリアを通りかかった際の服装。冬が訪れる時期で、厚手のコートを羽織り、頭にはスカーフを巻いていた。

モトラッド艦隊司令に就任したクロノクルに付き従い、地球クリーン作戦に参加したカテジナは、リガ・ミリティアと激闘を繰り広げる。

クロノクルとウッソが自分を巡って戦う様に愉悦するカテジナ。ふたりの間に邪魔が入ることを許さず、ウッソを擁護しようとしたコニーを撃墜した。

クロノクルを倒したウッソの前に身を投げ出し、殺して欲しいと哀願するカテジナ。だが、その行動はウッソを惑わせるための罠であった。

クロノクルへの手向けとすべく最後までウッソを付け狙ったが、ゴトラタンのビームをV2ガンダムの光の翼で弾き返されて敗れ去った。

戦いののち、ウーイッグに向かう旅の途中でカサレリアを訪れ、シャクティと再会する。降り始めた雪に感傷を覚せ、ひとり涙を流した。

クロノクル・アシャー編

Case of Cronicle Asher

ザンスカール戦争に身を投じたクロノクル・アシャーは、女王の弟という立場に悩まされながらも、戦いの中に己の野心を現していった。

クロノクルが戦場で見せた様々な感情と葛藤

U.C.0153.04.07 | 地球・コリーン | 1話

白いモビルスーツに見えたが……
白いヤツだと!?

Vガンダムと紙一重の戦いをするクロノクルのゾロ。この初対決以降、「リガ・ミリティアの白いヤツ」はクロノクルを悩ませ続けた。

ザンスカール戦争初期、イエロージャケットのテストパイロットを務めていたクロノクルは、ウッソ・エヴィンにテスト中のシャッコーを奪われるという失態を演じてしまう。汚名返上に燃え、リガ・ミリティアの討伐に臨んだクロノクルだったが、その眼前に敵の新型MSが現れる。伝説として語られるMSを髣髴とさせる白い機影に、クロノクルは驚愕するのだった。

一年戦争から70年以上が過ぎたU.C.0150年代初頭、「ガンダム」の名は反抗の象徴として語られる伝説的な存在となっていた。クロノクルがリガ・ミリティアの白いMS——ヴィクトリーガンダムに驚いたのも、抵抗分子が伝説の復活を目論んだ意味に気付いたからであろう（事実、クロノクルはのちにヴィクトリーをガンダムと呼ぶ部下たちを窘めている）。また、これを皮切りに、クロノクルはこの白いMSに幾度となく頭を悩まされることとなるのだった。

U.C.0153.05.04 | サイド2・アメリア | 24話

マリアの弟という立場を利用して
フォンセ・カガチがやろうとした母系社会を確立したいのだ

女王に祭り上げられたマリアの弟として、ザンスカール帝国の体制に放り込まれたクロノクルは、次第にその中で成り上がるという野心を抱くようになった。カテジナに語った言葉は、ザンスカール帝国の宰相カガチに取って代わろうとしたクロノクルの意志を物語っている。権力の階段を上ろうとしたクロノクルは、そのために姉のマリアや姪であるシャクティを利用することも厭わなかったのである。

宇宙に舞台を移した戦いの中で、クロノクルはリガ・ミリティアに身を寄せていた少女シャクティ・カリンと出会った。そして、シャクティがザンスカール帝国から隠されていた姉マリア・ピァ・アーモニアの娘と知り、彼女を政治的に利用しようと考える。マリアとシャクティの再会を演出し、ふたりの様子を記録させるクロノクル。カテジナ・ルースにその真意を問われ、頭をもたげ始めた野心を明かすのだった。

CHARACTER'S MIND

その後、戦功を挙げて順調に出世していったクロノクルだが、カガチたちを追い落とすまでには至らなかった。シャクティの存在もカガチに知られ、エンジェル・ハイロウ攻防戦において彼女の身柄を明け渡すこととなってしまう。

シャクティを利用しようとしたが、その意図を見透かされることもあった。

U.C.0153.05　地球・北米　35話

母親、父親のエゴというものは、時には子供を殺すこともあるということ、想像して欲しいものだな

ウッソを逃がすために身代わりとなったミューラを嘲えたクロノクルは、親の身勝手が子供に悪影響を与えかねないと語った。

戦争中期、クロノクルはモトラッド艦隊司令に就任し、地球クリーン作戦の指揮を執ることとなった。その作戦の過程で、クロノクルはウッソの母ミューラ・ミゲルを捕虜とした。そして、カテジナに捕らわれたシャクティを救出するためアドラステアに潜入したウッソを、ミューラが身を挺して助ける光景を目にする。子を想う母の行動に敬意を表しながらも、クロノクルは辛辣な言葉をミューラに投げ掛ける。

クロノクルの両親は、彼が幼い頃に離婚して育児を放棄したと言われている。以来、クロノクルは親不在の荒んだ環境で育っていった。ミューラに向けたクロノクルの言葉は、親の勝手に振り回された子供としての体験によるものだったのかもしれない。また、その指摘は奇しくも、ニュータイプの開花を期待してウッソに英才教育を施したミューラ（とハンゲルグ・エヴィン）の身勝手を突いていたのである。

U.C.0153.06.23　大気圏上層　51話

すべてがわかったウッソ・エヴィン！ キールームのシャクティと共に、我らを排除しようという魂胆!!

ウッソに対する敵意がクロノクルの感覚を研ぎ澄ませたのか、V2ガンダムとの一騎討ちで、クロノクルは激しい戦い振りを見せる。

戦争末期のエンジェル・ハイロゥ攻防戦で、クロノクルはアドラステア艦隊を率いて防衛線の後衛を担った。だが、戦況が逼迫すると、リグ・コンティオを駆って戦場に飛び出していく。その激戦の中で、ウッソに追い詰められたカテジナの叫びを感じ取り、V2ガンダムに襲い掛かるクロノクル。因縁の敵と刃を交えながら、クロノクルは自分たちを害そうとする意思に対して憎しみを露わにするのだった。

戦いを鎮めようとしたシャクティの祈りはエンジェル・ハイロゥの崩壊を呼び、彼女を助けようとしたウッソの奮戦はカテジナを苦しめた。そのふたりは、カテジナの憎しみに呑まれつつあったクロノクルにとって、自分たちを邪魔立てする存在に感じられたのだろう。ウッソやシャクティの意図はどうあれ、憎しみに駆られたクロノクルの心は、彼らを敵視して感情をぶつける矛先を向けさせたのである。

U.C.0153.06.23　大気圏上層　51話

姉さん……マリア姉さん、助けてよ ……マリア姉さん！

ウッソとの一騎討ちに敗れたクロノクルは、自らの野心が潰えたことを認められないまま、カテジナの眼前で散っていった。

分解を始めたエンジェル・ハイロゥを舞台に繰り広げられたクロノクルとウッソの一騎討ちは、カテジナの悪意に煽られて激しさを増していった。だが、クロノクルの執念はウッソに届かず、リグ・コンティオはV2ガンダムに撃墜される。カテジナの目の前で、落下していく機体から放り出されるクロノクル。しかし、クロノクルが救いを求めたのはカテジナではなく、自分を迎えるように現れた姉マリアの幻影であった。

カテジナと出会って以来、クロノクルは無意識のうちに彼女に依存していった。しかし、マリアに対する想いも強く、彼女がタシロ・ヴァゴの反乱に巻き込まれて命を落とした際には、感情的になってカテジナに制止される一面もあった。そして、クロノクルが死の間際に頼ったのはマリアだった。それは、姉に寄りかかったクロノクルの弱さだったと同時に、カテジナの情念から解放された証とも受け取れよう。

MORE INFO!

ウッソに向けた感情

クロノクルは幾度もウッソと戦場で相対し、その度に苦杯を嘗めさせられた。それゆえ、ウッソへの対抗意識は強く、彼がベスパの捕虜になった際にはリガ・ミリティアの人手不足を補うための少年兵でしかないと面罵していた。また、最後の一騎討ちでは、クロノクルの弱さがカテジナを迷わせたと指摘するウッソに対し、女王の弟という枷をはめられた自身の苦悩をぶつけてもいる。因縁の相手に対して、思うところも多かったのだろう。

脱走を図ったウッソを殴り倒し、数合わせの少年兵と吐き捨てるクロノクル。その少年に何度も後れを取った自身への苛立ちもあったのだろう。

エンジェル・ハイロゥ攻防戦の一騎討ちの中で、クロノクルは自らの苦悩を吐露する。それこそが、ウッソが指摘した弱さだったとも言える。

カテジナとの関係

コリーンでオイ・ニュング伯爵を捕虜とした際にカテジナを保護したクロノクルは、次第に彼女に惹かれていった。アーティ・ジブラルタルではカテジナに君を守ると告げ、彼女に対する誠実さを見せている。カテジナがベスパに身を投じてからは、上官として厳しく接しつつも、成長を促すよう取り計らった。一方で、戦争末期にはカテジナに苦言を呈されることが増え、そそっかしさではなく真の強さを見せて欲しいと独白される場面もあった。

カテジナをアーティ・ジブラルタルから宇宙に送ろうとしたクロノクルは、不安がる彼女に臆な思いはさせないと語って気遣いを見せた。

マリアの死に冷静さを失い、カテジナに釘を刺されるクロノクル。関係が深まるにつれて、カテジナにコントロールされる場面も多くなった。

フェザール・イゼルカント／ドレーネ・イゼルカント

Fezarl Ezelcant／Dorene Ezelcant

PROFILE

年齢	――
所属	ヴェイガン
階級	――
出身	――
技能	指導、統治、MS操縦（フェザール）

unknown

理想を追った火星独立国家首領と彼を見守った伴侶

地球奪還を目指した火星独立国家 その首領の真の狙いと願い

火星移住計画の失敗によって火星圏に取り残された人々は、やがて火星独立国家ヴェイガンを建国し、地球連邦政府に戦争を仕掛けた。そしてA.G.164年、ついに表に立つことを決断したヴェイガンの首領フェザール・イゼルカントは、改めて全面的な地球侵略の開始を宣言。地球の都市オリバーノーツ襲撃を皮切りに、潜伏部隊が各地で行動を開始した。

フェザール率いるヴェイガンは「プロジェクト・エデン」なる計画を推進していたが、その目的は地球種から地球を奪還し、地上にヴェイガンの国家を建設することと喧伝されていた。しかし、同計画の真の狙いと願い――フェザール個人が夢想したことは、ヴェイガンも地球連邦もなく優れた種のみが生きる理想の楽園を創り出すことであり、その真実を知り得た者はごくわずかであったと言う。

絶対的な存在としてヴェイガンをまとめ上げるフェザール。実は地球連邦との戦いにおいては、開戦当初からヴェイガンの司令官に指示を与えていた。

地球の都市オリバーノーツ襲撃後、フェザールは地球連邦に対して宣戦を布告し、地球種に生きる意志と生きる価値があるかを問う戦いの幕を開けた。

CHARACTER ―― その人格

連邦側のフリット・アスノからは「狂った支配者」と切り捨てられたフェザールだが、支配者として圧政を強いることはなく、国民から強い支持を受けている。またゼハート・ガレットをはじめ、彼に心酔している腹心も数多い。

過激な手段も用いる一方、普段は紳士然としたフェザール。捕虜となったキオ・アスノも悪い印象は持たなかったようだ。

◀フェザール・イゼルカント

◀ドレーネ・イゼルカント

RELATIONS

MAIN MS

xvm-fzc ガンダムレギルス

AGE-3 ガンダムAGE-3のデータを解析し、EXA-DBの技術を加えて生み出されたヴェイガン製のガンダム。フェザールが乗機とした後、後継者となったゼハートに託された。

関連ファイル

xvm-fzc ガンダムレギルス	AGE-01-19
キオ・アスノ	AGE-02-03
ゼハート・ガレット	AGE-02-24
ヴェイガンの人々②	AGE-02-28

FILE PREVIEW
AGE-02-03 キオ・アスノ

AGEデバイスを受け継ぎ、AGE-3 ガンダムAGE-3を駆る少年。ガンダムAGE-3もろとも拉致された際にヴェイガンの現状を知り、自分なりに和平の道を模索し始める。

フェザール・イゼルカント

A.G.初頭、EXA-DBに内包された技術データの一部を入手したフェザールは、ヴェイガンを連邦をも凌駕する強国へと育て上げ、その功績によりヴェイガンの民にとって国父とも言える存在となった。さらに彼は優秀なXラウンダーでもあり、ガンダムAGE-3の捕縛によって生み出されたヴェイガン製のガンダムを駆り、キオやキャプテン・アッシュ（アセム・アスノ）といった名立たるパイロットを追い詰める手腕も見せている。

一方、連邦側にとってのフェザールは、地球侵略を目論む狂った支配者でしかなかった。だが、ガンダムAGE-3と共にヴェイガンに捕えられたキオは、ヴェイガンの民の置かれた状況と、それゆえに彼が推進した「プロジェクト・エデン」の真の狙いを知ることとなる。表向きは奪還した地球にヴェイガンの民を移住させるという同計画だったが、その真の狙いは新たな人類による、戦争のない穏やかな楽園の創造だったのである。新たな人類となる賢き者たちを集める手段としてコロニーの爆破、戦争という極限状況での選民に及んだことは、許されざる暴挙であった。だが、フェザールが望んだ楽園の姿は、次世代を担うキオに大きな影響を与えている。

地球圏と火星圏の人類は、やがてそれぞれの未来を懸けた最終決戦に臨んだ。だが、死病に冒されていたフェザールはすでに余命幾ばくもなく、ヴェイガンの全権を腹心のゼハートに、パイロットとしての働きはクローンであるゼラ・ギンスに引き継がれた。なお、フェザールが今際の際に思念を送って地球の未来を託した相手は、キオであった。後年、キオら人類は戦争のない世界を創造し、図らずも彼の願いは成就することとなった。

幼馴染のキオにヴェイガンの世界を見届けてもらおうと考えていたフェザール。亡き息子ロミに重ねたであろう彼には特別な感情を抱いていたようだ。

ドレーネ・イゼルカント

ヴェイガンの本拠地セカンドムーンの城で暮らすドレーネは、ヴェイガンの首領ではなく、あくまで夫としてのフェザールを支えてきた賢妻であった。フェザールが計画した「プロジェクト・エデン」の成功を強く願っていた彼女だが、敢えて国政に口を出すことはせず、フェザールを支えることに専念していたのである。

時に狂信的ですらあったフェザールを、彼女がどのような気持ちで見守り続けてきたかは定かではない。ただ、ドレーネは夭折した息子ロミの地球への憧れが「プロジェクト・エデン」推進の遠因となったことを知る、数少ない人物のひとりであった。居城に連れて来られたキオにロミの面影を重ねる節も見せた彼女だが、フェザールへの気遣いからか、決して母親としての感情を露わにはしなかった。陰ながら首領を支えるという行為の根底には、若くして命を落とした息子と、信念を貫こうとする夫への強い愛情が存在したのである。そして、常に夫の傍らに寄り添っていたドレーネは、良き伴侶としてフェザールを静かに看取る役目を果たすこととなった。

仲睦まじい夫婦であったドレーネとフェザール。容姿的に年齢の差が見られるのは、コールドスリープ期間の差によるものと考えられる。

Ⓐ白を基調とした専用のパイロットスーツ。ヘルメットに施された角のような装飾や縁取りなど、金色が散りばめられた豪奢なデザインとなっている。
Ⓑ若き日のフェザールは、もともと火星移住計画における初期移民であった。装いもA.G.164年時のような大仰なものでなく、一般的な服装に身を包んでいた。
Ⓒロミと暮らしていた当時のドレーネ。美しい黒髪と紅い瞳が特徴である彼女だが、その独特の艶やかな雰囲気も、若い頃から持ち合わせていたようである。

ガンダムAGE-3と共に捕らわれたキオを自ら出迎え、比較的自由な立場を与えたフェザール。彼はドレーネと共に、息子によく似たキオをそれとなく見守っていた。

イゼルカント夫妻の息子ロミは、ちょうどキオと同じくらいの年頃に、火星圏独特の死病「マーズレイ」により息を引き取ったと言われている。

逃亡を図ったキオを追ったフェザール。ガンダムレギルスを駆りパイロットとしての技量を見せると共に、亡き息子に対する妄執も垣間見せた。

計画を引き継がせるべくゼハートに全権を委譲したフェザール。ゼハートは計画の真の狙いを聞かされながらも、これを引き継いだ。

余命が短い事を承知していたフェザールは、クローンの作成に着手。戦闘面における自身の代役として、ゼラ・ギンスを生み出した。

火星種と地球種の最終決戦が大詰めを迎えた頃、静かに息を引き取ったフェザールと、その最期を看取ったドレーネ。キオとの語らいによるものか、死に顔は思いのほか穏やかであった。

ヒクサー・フェルミ／ハヤナ

Hixer Fermi／Hayana

PROFILE

年齢	——
所属	ソレスタルビーイング
階級	——
出身	——
技能	MS操縦、整備（ハヤナ）、占い（ハヤナ）

心に傷を負った ふたりのイノベイド

人間を軽んじたイノベイドのビサイド・ベインは、ガンダムマイスターを人間が務めることに反対し、マイスターとその候補を次々と暗殺した。「プルトーネの惨劇」をはじめとした一連の事件は、ソレスタルビーイング（CB）に所属していた人間のみならずイノベイドにも大きな影響を与えたのである。

ヒクサー・フェルミはビサイドに意識を操られ、CBのスカウトを担う親友グラーベ・ヴィオレントを撃ってしまい、友を殺めたことで心神喪失となる。一方、データだけの存在であるガンダムマイスター874の肉体として生まれたハヤナは、ビサイドの襲撃に抗するため874が肉体を一時的に奪ったことが大きなトラウマとなり、姉874＝ハナヨを恨む。

こうして心に傷を抱えたヒクサーとハヤナは、似た者同士としてかコンビを組み、新たな役割をヴェーダから与えられ世界を見る。そして、そこで自分たちの因縁と相対することとなるのだった……。

ヒクサーはリボンズ・アルマーク（左）がグラーベたちを監視するために送り込んだイノベイドであったが、それを知るビサイドに利用されてしまう。

リジェネ・レジェッタとティエリア・アーデ（右）のように、ハヤナは874と同型のイノベイドであり、本来は身体の器として生み出された存在であった。

CHARACTER —— その人格

以前のヒクサーは陽気で軽い青年であったが、事件ののちは一転、落ち着いた性格に変貌を遂げている。当初ハヤナは874を姉として甘える妹のようであったが、身体をいつ奪われるかわからない恐怖により憎しみの目を向けるのだった。

ヒクサーは、イノベイドである自覚はなく「人間」としてイノベイド勢力と戦ったティエリア（左）と同様だったと言える。

RELATIONS

親友を失った青年と身体を失うトラウマを抱えた少女

◀ヒクサー・フェルミ

◀ハヤナ

MAIN MS

GNY-002F
ガンダムサダルスード タイプF

ガンダムサダルスードをフェレシュテにて改良した機体。特化したセンサー能力を揃なわず、乏しかった攻撃力と防御力の強化に成功している。オリジナルの太陽炉を搭載。

関連ファイル

GN-XXX ガンダムラジエル	AGS-01-209A
GNY-002F ガンダムサダルスード タイプF	AGS-01-218
グラーベ・ヴィオレント／ヒクサー・フェルミ	AGS-02-25
ハナヨ 他	AGS-02-27B
私設武装組織ソレスタルビーイング	00-03-33
イノベイド	00-03-43

FILE PREVIEW
00-03-43 イノベイド

生体端末としてヴェーダが造り出した人工生命体。量子波を操る能力を持ち、戦闘／情報／特殊能力タイプなど、複数のタイプがいる。

ヒクサー・フェルミ

イノベイドであることを知らない彼は「人間」のガンダムマイスター候補として支援戦闘機GNセファーのパイロットを務めていた。しかし、人間のマイスターをスカウトするグラーベを亡き者にせんと企んだビサイドによって操られ、友人を手に掛ける。その事実に心神を喪失していたが、CB壊滅後、ヴェーダの目となって世界を見るように指示が下され、ハヤナをパートナーにして行動を開始。CBのサポート組織フェレシュテに接触し、フェレシュテのガンダムマイスター、フォン・スパークに興味を抱く。何者にも縛られず自分の判断で行動するフォンを見たヒクサーは、命じられるまま生きている自分に疑問を持つようになる。

独自に動き出したフォンを止めるためフェレシュテに招かれたヒクサーは、フォンを超えることで以前の自分を取り戻せるのではないかと考えるようになっていく。そうしてフェレシュテのマイスターとなったヒクサーはフォンを追い、その過程で自分がイノベイドだと知る。その事実に、自分は「ヒクサー・フェルミ」以外の何者でもないと自己を見出す。そして再生されたもうひとりの自分との戦いを経て、自分が歩んできた人生があるからこそ、造られたイノベイドではなく生きているひとりの人間だと理解し、自分自身を取り戻すのだった。

西暦2314年、木星圏に到達しているはずのグラーベの機体を回収しようとしたヒクサーは、運悪くそこに出現した地球外変異性金属体ELSと出くわすこととなった。

ハヤナ

強制的に肉体を奪われた経験によって、ハヤナは自分が消える恐怖に苛まれるようになる。その後、ひとり泣いていた自分に声を掛けてくれたヒクサーに付き従うようになったハヤナは、フェレシュテに接触した際、ハロの端末となった874＝ハナヨを破壊する。だが、ヒクサーがフェレシュテに参加したことで、わだかまりを抱えつつ仲間として従う。そして西暦2312年、甦ったビサイドとヒクサーが対決できるように姉ハナヨがMSを用意してくれたことに対し、ハヤナはわだかまりを捨て感謝するのだった。

西暦2314年、CBのデル・エルダたちと木星圏で新たな太陽炉の製造を手伝っていたハヤナ。ヒクサーがグラーベの回収で出ていき、ひとり地球圏に戻ることを寂しがった。

A ヒクサー・フェルミ

B ヒクサー・フェルミ

C ハヤナ

D ガンダムラジエル ブラック

A 友を殺したことを悔やんで自我を捨て、ヴェーダの目として生きることを選んだヒクサー。だがフォンとの接触で昔の自分を取り戻していく。
B 西暦2302年時のヒクサー。女好きで裏表のない青年であった。生真面目なグラーベにも物怖じせず接し、やがて親友同士となる。
C 無口なハナヨとは正反対で、活発なハヤナ。小悪魔的な性格だが、意外にもお人好しなところがある。ヒクサーに好意を寄せ共に歩む。
D 再生されたもうひとりのヒクサーが搭乗し、同じく再生されたグラーベの乗るGNセファーと組んでヒクサーの前に立ち塞がった。

MORE INFO!

同型のイノベイド

ヴェーダの目や手足となるべく造られた生体端末であるイノベイドは、特定の遺伝子マップをベースとして生み出されている。そのため同型のイノベイドが造られることも多い。この同型同士は脳量子波による相互通信が可能であるという特性を備えていた。これを利用し、リボンズはアニュー・リターナーを「人間」としてCBに所属させ、トレミーチームの監視と情報を得る手段とするスパイにしたのである。

リヴァイヴ・リバイバルの同型であるアニュー（左）は、スパイとしての記憶を封じたままCBに派遣され、脳量子波によるリヴァイヴからの一方通行な通信によって情報をイノベイドに送っていた。

ガンダムマイスター874／ハナヨ
第二世代ガンダムのマイスターであった。ビサイドと独自に戦った責任を取り、ハロと同じ端末に身を置く。フェレシュテでヴェーダとの遣り取りに従事する。

ハーミヤ
反政府組織カタロンに参加していた少女。コンピュータを得意とし、ハナヨやハヤナを姉と呼ぶ。「6人のイノベイド」のひとりであり、仲間を否決する力を持つ。

歴史フォーカス

サンクキングダム崩壊

The Confused Situation

A.C.195

完全平和主義国家を利用したロームフェラ財団の政策

モビルドール（MD）の主力化に反対したトレーズ・クシュリナーダがOZ総帥を更迭され、財団本部に幽閉されたことを契機に、OZは内戦に突入した。ロームフェラ財団代表代行デルマイユ・カタロニア公爵が主導するOZ財団派（新生OZ）と、トレーズを信奉するOZトレーズ派による衝突だった。

しかし、財団派にとってトレーズ派は大きな脅威にならなかった。トレーズ自身は幽閉されたまま積極的な意思を示さなかったうえ、戦力面でも大量生産されたMDビルゴに大きく劣ったためである。

ガンダムもまた追われる立場にあった。ヒイロ・ユイらが駆るガンダムは確かに強力であり、MDビルゴすら撃破する戦闘能力をもって各地で反OZ活動を続けていた。しかし、組織的行動は取っていなかったうえ、コロニーがOZを受け容れたため後背組織を失っており、守勢に立たされていたのだった。MSトールギスに乗り財団派と交戦していたゼクス・マーキス（ミリアルド・ピースクラフト）にも、ほぼ同じことが言える。実際、ガンダムやゼクスの力をもってしても、財団派の地球平定作戦「オペレーション・ノヴァ」を遅滞させるのが精一杯だったのだ。

では、ロームフェラ財団とOZ財団派が警戒する相手がいなかったかと言えば、そうではない。

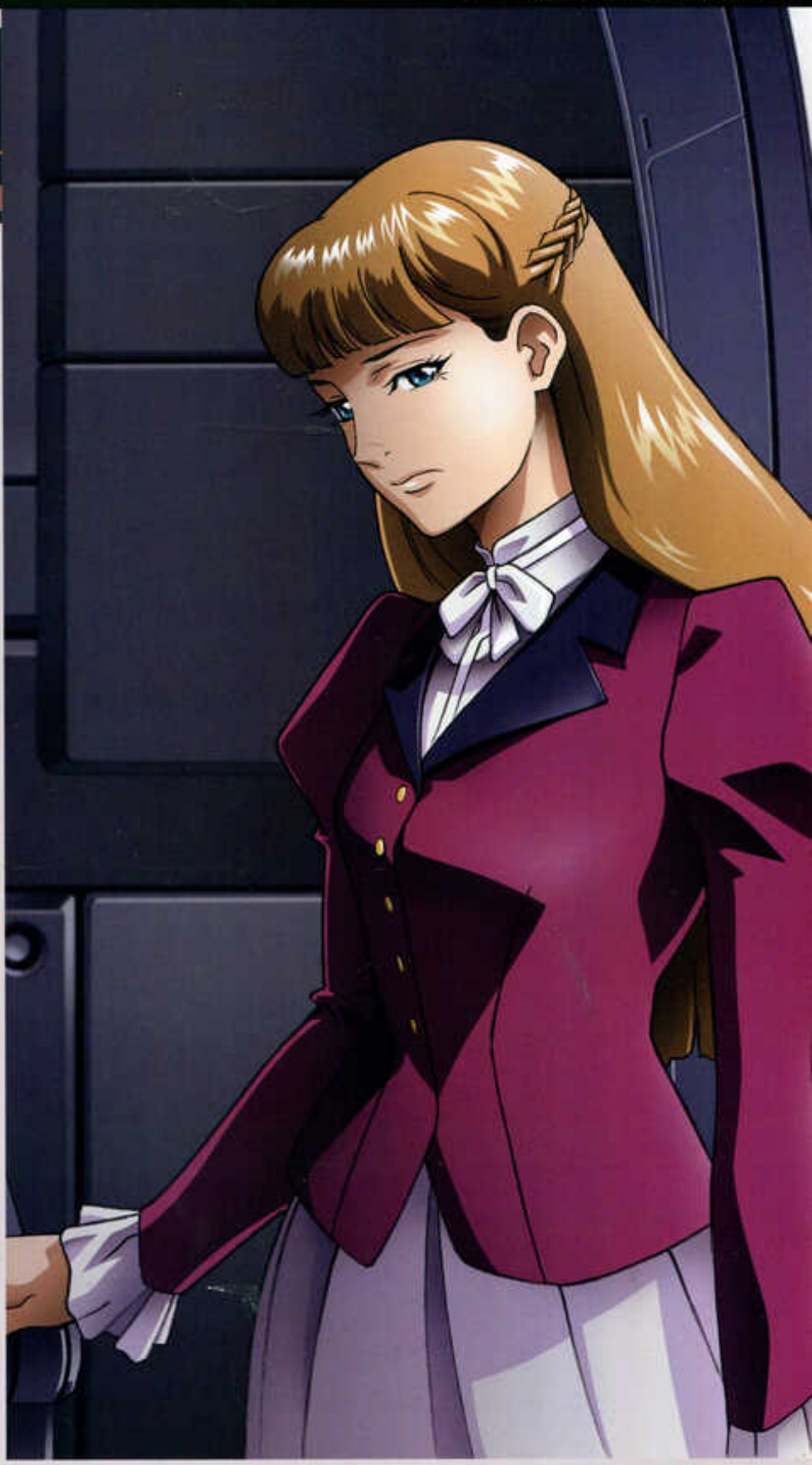
この時期、リリーナ・ピースクラフトの下で復興した完全平和主義国家サンクキングダムが、にわかに注目を集めていた。リリーナが語る完全平和主義は、ロームフェラ財団に疑問を抱く国が増加する中で支持を集め、サンクキングダムに子息を留学させる有力者が増加しつつあったのだ。

軍事力主体の政策を採るロームフェラ財団にとって、兵器の完全廃棄や軍の解体を語る完全平和主義の広まりは脅威であり、対処に迫られた。ただし当初、ロームフェラ財団はサンクキングダムを利用する方針を採っている。ロームフェラ財団はサンクキングダムを殲滅しないことで、OZの「平和政策」の証にして象徴としたのである（それでも度々サンクキングダムへの軍事介入を匂わせ牽制した）。

しかし、オペレーション・ノヴァでOZ財団派が地球のほぼ全域を制圧すると、ロームフェラ財団は方針を転換する。トレーズのようなカリスマ性を持たなかったデルマイユ公は、組織の象徴となる巨大宇宙戦艦（後の《リーブラ》）の建造を開始した。

これは、ロームフェラ財団の軍事力による支配が、地球圏統一後も続くことを意味していたが、それだけではない。新たな「象徴」を作り出すロームフェラ財団にとって、偽りの「象徴」であるサンクキングダムは不要になったということである。そして、不要なものは軍事力で制圧するのが財団のやり方であった。

（ストー・グラーズ　執筆時期不明）



関連ファイル

リリーナ・ドーリアン	W-02-07
ゼクス・マーキス	W-02-08
トレーズ・クシュリナーダ	W-02-09
ロームフェラ財団の人々	W-02-17
ホワイトファング決起と世界国家設立	W-03-08
MD（モビルドール）	W-03-13
サンクキングダム	W-03-24

FILE PREVIEW

W-02-07 リリーナ・ドーリアン

A.C.195における戦乱の重要人物のひとり。A.C.182に滅されたサンクキングダムの遺児で、自国の再興を果たすが、後にOZによる軍事介入を招く。戦火の拡大を受け国家の主権放棄を宣言する。

Illustration by MASANORI SHINO ／ Color by TAEKO KUMAGAI ／ Special Effect by MASANORI SHINO

サンクキングダムを巡るガンダムの動向

オペレーション・ノヴァが進展する中、地球に降りていたふたりのガンダムパイロット――ヒイロ・ユイとカトル・ラバーバ・ウィナー――はサンクキングダムに入り、防衛とリリーナの警護を担った。ヒイロはOZ財団派とトレーズ派によるルクセンブルグ基地攻防戦にも参加したが、トレーズからガンダムエピオンを受領後、サンクキングダムに戻っている。

なお、宇宙に残ったデュオ・マックスウェルと張五飛は個人レベルで反OZ活動を続け、記憶を失ったトロワ・バートンは放浪の末、サーカス団に身を寄せた。

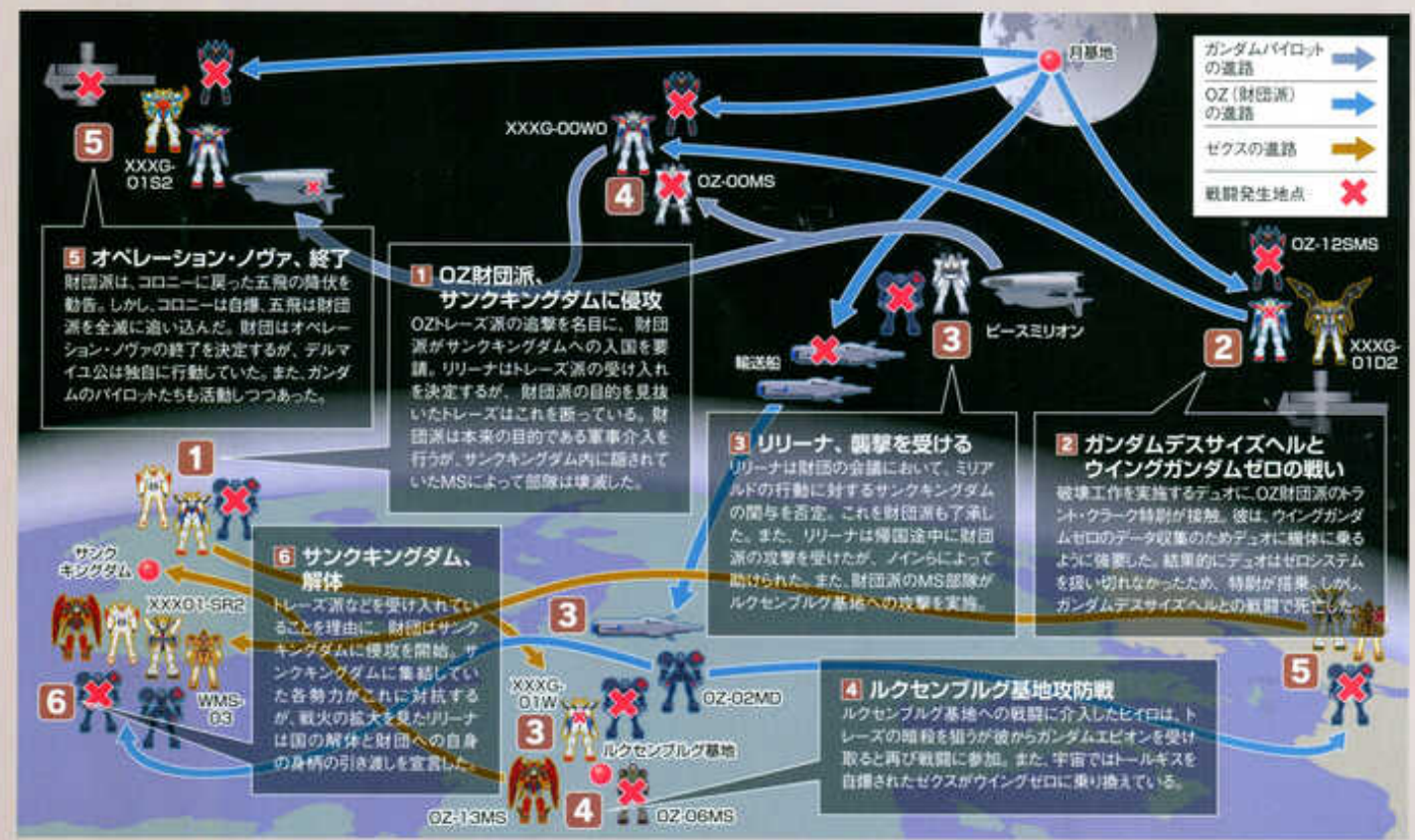


Illustration by AKIO UNUMA

1 サンクキングダムの戦闘

OZ財団派が、サンクキングダムへの入国を要請。王国内に逃げ込んだOZトレーズ派の追撃が名目だったが、サンクキングダムへの軍事介入こそが真の狙いだった。この事態を受けたリリーナは、亡命者としてトレーズ派の受け入れを決定した。だが、財団派の真意を見抜いていたトレーズ派は申し出を断るも、財団派はサンクキングダムに軍事介入してきた。この際、サンクキングダムに隠されていたMSにより、財団派の侵攻部隊は壊滅している。

ヒイロとカトルはサンクキングダム学園に入学し、ドロシー・カタロニアと邂逅。財団派の侵攻部隊撃破後、リリーナは防衛力の保有を許可した。

2 デスサイズヘル vs ウイングゼロ

宇宙に残ったデュオは、OZ財団派に破壊工作を仕掛けていた。同じ頃、ウイングガンダムゼロのテストを行っていたトラント・クラーク特尉（財団派）はゼロシステムのデータ収集のため、デュオを探し出しウイングガンダムゼロに乗るよう強要。だが、デュオはゼロシステムを扱い切れなかった。直後、ウイングガンダムゼロに搭乗したトラントはツバロフ技師長が差し向けた部隊を壊滅するが、デュオのガンダムデスサイズヘルとの戦闘でゼロシステムに翻弄され死亡した。

デュオの破壊工作で、MD戦略に支障が生じた。財団派ながらゼロシステムの解析を目指したトラント特尉は、システムに飲み込まれてしまった。

3 リリーナ暗殺未遂事件

ルクセンブルグ基地攻略を控えていたデルマイユ公が、ブレーメンで開催される会議にリリーナを招いた。表向きは紛争終結後についての助言を求めていたが、実際にはミリアルドによる反財団作戦を斜弾するものだった。しかし、リリーナはミリアルドの行動を「ゼクスによるもの」としてサンクキングダムの関与を否定し、財団も了承した。その頃、財団派のMD部隊がゼクスの迎撃を逃れて降下し、ルクセンブルグ基地に攻撃を仕掛けた。

財団派は会議から帰国中のリリーナを襲ったが、ノインらの介入で失敗。ヒイロのウイングガンダムは、ルクセンブルグ基地の防衛に加勢した。

4 ルクセンブルグ基地の戦闘

ヒイロの介入によりルクセンブルグ基地の攻防は混戦の様相を呈し、苛立ったデルマイユ公は周辺地域の戦力を投入しての殲滅を指示した。その頃宇宙では、財団派が爆破処理しようとしていたウイングガンダムゼロをゼクスが奪取。ルクセンブルグでトレーズと出会ったヒイロは、ガンダムエピオンを受領すると再び戦闘に介入している。しかし、エピオンのシステムに翻弄されたヒイロは、財団派・トレーズ派の区別なく殲滅していった。

ゼクスは財団派との戦闘でトールギスを自爆させ、ウイングガンダムゼロに乗り換えた。トレーズ暗殺を狙ったヒイロは結果的にエピオンに搭乗。

5 オペレーション・ノヴァの終了

五飛が戻っていたL5・A0206コロニーに対し、財団派が攻撃を実施。財団派はコロニーを盾に、アルトロンガンダムを駆る五飛に降伏を迫ったがコロニーは自爆し、五飛は財団派の侵攻部隊を殲滅した。財団が地球圏統一をほぼ終えたことでオペレーション・ノヴァの終了が決定されたが、軍事力による平和を目指すデルマイユ公は宇宙戦艦の建造を命令。サンクキングダムでは財団に不満を持つ国の代表が集まっていた。

記憶を失ったトロワはキャスリンらサーカス団と再会し、カトルはガンダムサンドロックの回収へ向かう。五飛はゼクスからの共闘の申し出を断った。

6 サンクキングダムの解体

財団は、サンクキングダムの国境付近に戦力を集結させ、侵攻の構えを見せていた。そして、サンクキングダムがトレーズ派や旧地球連合軍将兵などを無制限に受け入れていることを口実に、財団派が軍事侵攻を開始した。これに対して親衛隊、エピオン、サンドロックとマグアナック隊、トレーズ派などが抗戦したが戦火は首都にまで及んだ。ここに至ってリリーナはサンクキングダムの主権放棄と解体、自身の身柄引き渡しを宣言した。

財団は象徴となる巨大宇宙戦艦の建造を開始すると共に、利用価値がなくなったサンクキングダムに侵攻。リリーナは自身の身柄を財団に預けた。

MS 運用理論

AH作戦

The History of Warfare in U.C.
宇宙世紀の戦史解説

戦略兵器AHを巡る宇宙艦隊戦

ザンスカール戦争末期のU.C.0153.06、ザンスカール帝国は戦略級精神攻撃兵器「エンジェル・ハイロゥ」を用いた「AH作戦」を実施した。生物に精神退行を引き起こす特殊波動を放つエンジェル・ハイロゥを地球上空に投入することで、非ザンスカール勢力を駆逐する作戦であった。

この作戦で問題となったのは、エンジェル・ハイロゥの護衛である。2万人ものサイキッカーを動員することで十全な威力を発揮するエンジェル・ハイロゥは直径20kmクラスの巨体を誇り、自力航行能力も持っていたものの防御力は低かった。しかも、サイド2宙域における組み立て作業中に、リガ・ミリティアと地球連邦軍の連合艦隊（以下、リ地艦隊）にその存在を察知されており、迎撃を受けることは確実だった。

そこでベスパは、太陽電池衛星ハイランドに集結しつつあったリ地艦隊を撃破すべく、タシロ艦隊（シュバッテン艦隊）とビビニーデン艦隊（ラステオ艦隊）を派遣する。エンジェル・ハイロゥに接近される前に、リ地艦隊を撃滅しようというのだ。ベスパの三大艦隊のひとつとそれに準ずる艦隊をリ地艦隊に差し向けつつ、ムッターマ・ズガン艦隊（ダルマシアン艦隊）とクロノクル艦隊（アドラステア艦隊）をエンジェル・ハイロゥの防衛に充てる戦術だった。

一見合理的な戦術だが、エンジェル・ハイロゥを護衛するためとはいえ三大艦隊のうち、ふたつも後方に置くのは弱気に思える。本国の防衛部隊をエンジェル・ハイロゥの警備に多くを割き、ズガン艦隊かクロノクル艦隊をリ地艦隊迎撃に派遣すべきではないか？

これに加えて、初期の戦闘に投入されたタシロ艦隊とビビニーデン艦隊が連携を欠き、タシロ艦隊はほぼ単独でリ地艦隊と交戦した。つまり、エンジェル・ハイロゥを守るベスパの陣形は、衛星軌道まで接近したビビニーデン艦隊を先鋒に、中衛にタシロ艦隊、サイド2宙域に後衛のズガン艦隊とクロノクル艦隊という極めて長大なものとなってしまったのだ。縦深陣と言えば聞こえはいいが、各艦隊が連絡を欠いている以上、各個撃破される危険性が高かった。

戦術に優れるベスパが、戦力の逐次投入に繋がる不合理な行動に出た背景には、帝国上層部の思惑があったと見られる。各艦隊司令に叛意があることを知っていた帝国宰相フォンセ・カガチ首相は、AH作戦の中で軍上層部の多くを葬り去ろうとしたようである。

しかし、艦隊司令たちはカガチ首相の意図に気付いていた。そこでズガン将軍やクロノクル大尉はエンジェル・ハイロゥから離れることを避け、最前線に送られたタシロ大佐とビビニーデンは戦術的後退を装って後方に下がろうとした。

（ザウ・サワード　U.C.0155）

関連ファイル

ウッソ・エヴィン	V-02-01
シャクティ・カリン	V-02-02
ザンスカール帝国の指導者	V-02-18
エンジェル・ハイロゥの決戦	V-03-09
カイラス・ギリーとエンジェル・ハイロゥ	V-03-23
ザンスカール戦争	V-03-24

FILE PREVIEW
V-03-23 カイラス・ギリーとエンジェル・ハイロゥ

ザンスカール帝国が開発した超兵器群。特にエンジェル・ハイロゥは照射エリア内にいる生物の精神を退行させる特殊兵器であり、ザンスカール戦争の最終決戦はこれを巡って戦われた。

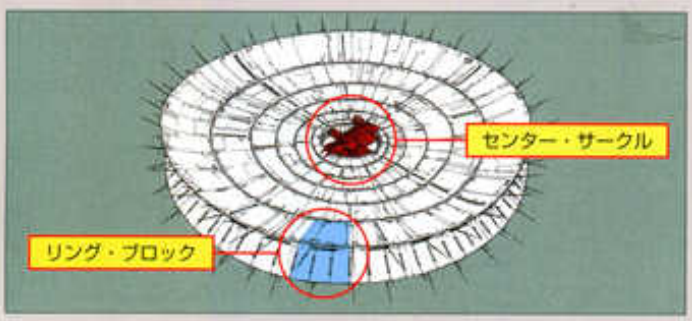
Illustration by TAKUYA IO

精神兵器エンジェル・ハイロゥ

ザンスカール帝国が「AH作戦」の中核に据えたエンジェル・ハイロゥは、戦略級のサイコミュ兵器の一種である。エンジェル・ハイロゥが照射するサイコ・ウェーブ（特殊波動）を浴びた生物は精神退行を起こして睡眠状態となり、最終的には衰弱死する。木星船団の協力の下、カガチ首相の主導で建造されたが、その存在を知る者は帝国上層部でもひと握りに過ぎなかった。

2万人ものサイキッカーの意思を、女王マリア（後に娘のシャクティ）が統一することで精神する。

エンジェル・ハイロゥの影響範囲は極めて広く、ヨーロッパ一帯の生物の精神を退行させた。特殊波動に指向性を持たせることもできる。



AHを巡る対立

AH作戦では、エンジェル・ハイロゥによる非マリア主義的勢力の掃討を目論むザンスカール帝国と、その阻止を目指すリガ・ミリティアおよび地球連邦軍のムバラク艦隊という構図で進展した。ただし、連携がとれていたリ地艦隊と異なり、ザンスカール帝国には内部対立があった。このため戦術が不合理になったり、作戦中に反乱が起こったりするなどの問題を抱えた。

地球連邦政府・軍はザンスカール戦争への介入に非積極的だったが、一部の有志がリガ・ミリティアと連携していた。

ザンスカール帝国の上層部や高級軍人には帝国支配の野望を抱く者が多く、AH作戦時は特に不安定だった。

リガ・ミリティアの内情

リガ・ミリティアにはこれといった内部対立はなく、地球連邦軍のムバラク艦隊との連携・共闘もスムーズに行えた。

ムバラク艦隊の正規軍人もリガ・ミリティアのメンバーに敬意を払っており、軋轢や対立は少なかったようだ。

ザンスカール帝国の内情

作戦実施で同意していた帝国上層部だが、カガチ首相と各艦隊司令は水面下で対立し、出し抜く機会を狙っていた。

女王マリアは作戦の真相を知らされないままカガチ首相に協力。上層部の対立は作戦に悪影響を与えた。

SCIENCE Key Word

人間の精神に影響を与えるサイコミュ

エンジェル・ハイロゥほどではないが、サイコミュが人間の精神に影響を与える可能性は指摘されている。脳にダメージを与え、記憶因子を破壊することもあったという。

可変MAサイコ・ガンダムが搭載したサイコミュは、パイロットである強化人間に戦闘を強要するものだったと見られる。

RX-0 ユニコーンガンダム

NT-D起動時、パイロットは受信した感応波を敵意に変換する「処理装置」になってしまう。

リガ・ミリティア、地球連邦軍の戦略・戦術

リガ・ミリティアと地球連邦軍ムバラク艦隊（ムバラク・スターン大将指揮）の合同軍は、AH作戦の阻止を狙った。両勢力の協同は、リガ・ミリティアの指導者「真のジン・ジャハナム」ことハンゲルグ・エヴィンの呼び掛けで実現したものだった。

■ 目的

リ地艦隊の主目的はAH作戦の阻止であり、リガ・ミリティアとムバラク艦隊で異なる部分はなかったようだ。他にも、ザンスカール帝国中枢の撃破、地球連邦政府へのアピールなどを含んでいたと考えられる。

当初こその実態が不明だったエンジェル・ハイロゥだが、その威力と帝国上層部の意図は人類の脅威となった。

■ 戦術

リ地艦隊は、カイラス・ギリーのような切り札となる超兵器を持たなかったため、宇宙艦隊戦とMS戦のみでベスパ艦隊を阻止する形となった。命令系統は勢力ごとに分割されていたが、連携は大前提となった。

数が多いムバラク艦隊が主力。リガ・ミリティアは切り込み隊や遊撃部隊としての活躍が期待されたようだ。

■ 参加将兵・投入兵器

各勢力のリーダーであるハンゲルグやムバラク大将すら前線に立った。近代化改修されていたとはいえムバラク艦隊の装備は旧式ばかりで、実質的な主力はリガ・ミリティアの新型MS群だったと言える。

総旗艦はムバラク艦隊の《ジャンヌ・ダルク》。リガ・ミリティアの中核艦《リーンホースJr.》は最前線を担当。

LM314V21 V2ガンダム

ミノフスキー・ドライブ情報MS。リガ・ミリティア最強の機体で、常に最前線で活躍した。

LM111E03 ガンブラスター

リガ・ミリティアの主力MS。機動性に秀でており、地球連邦軍にも供与された。

RGM-122 ジャベリン

地球連邦軍の主力機。30年以上前の設計でベスパの新型機相手に苦戦を強いられた。

ザンスカール帝国の戦略・戦術

ザンスカール帝国は、エンジェル・ハイロゥを用いた非マリア主義的勢力の排除を目指した。ただし、エンジェル・ハイロゥの制御を司る女王マリア・ピア・アーモニアには、戦争の停止という偽りの作戦目的が告げられていた。

■ 目的

エンジェル・ハイロゥを用い「反抗勢力」の無力化と掃討を狙った。なお「反抗勢力」には、地球連邦政府・軍やリガ・ミリティアだけでなく、ザンスカール帝国とマリア主義に賛同しない一般人も含まれていた。

カガチ首相は戦闘衝動の強い人間すべてを粛清しようと考えており、ベスパ首脳部の一掃も想定したようである。

■ 戦術

エンジェル・ハイロゥを地球まで移動させて特殊波動を照射し、非マリア主義的勢力を粛清。エンジェル・ハイロゥには宇宙艦隊が随伴し、抵抗するリガ・ミリティアや地球連邦軍を排除しつつ侵攻することとなっていた。

初期には衛星軌道からサイド2に至る長大な縦深陣を形成。エンジェル・ハイロゥを地球に降下させる計画だった。

■ 参加将兵・投入兵器

エンジェル・ハイロゥを護衛しつつ進撃するため、ザンスカール帝国としては空前の4個艦隊を投入。女王マリアの近衛師団まで動員された。兵器の質は艦艇・MSともに地球連邦軍を凌駕しており、優位に立っていた。

エンジェル・ハイロゥを制御する女王マリアも従軍。女王と共に参加したカガチ首相は、反乱を警戒していた。

ZMT-S34S リグ・コンティオ

コンティオの発展型で、ハイエンド機に属する試作MS。女王の弟クロノクル大尉に与えられた。

ZM-S06S ゾロアット

ベスパの宇宙用主力MS。連邦軍のシャリンを上回る性能を持ち、固定装備も充実している。

ZM-S22SC リグ・シャッコー（近衛師団用）

女王マリアの近衛師団が装備するリグ・シャッコーの改修機。隠密性を重視している。

戦闘の推移

エンジェル・ハイロゥを巡る戦闘は、太陽電池衛星ハイランドに集結したリ地艦隊に対し、ビビニーデン艦隊が攻撃を仕掛けたことで開始された。当初、リ地艦隊はMSザンネックによる長距離攻撃を警戒していた。ベスパは、先陣に送り込んだはずのタシロ艦隊の後退と女王マリアの拉致で混乱したが、作戦自体は進展していった。

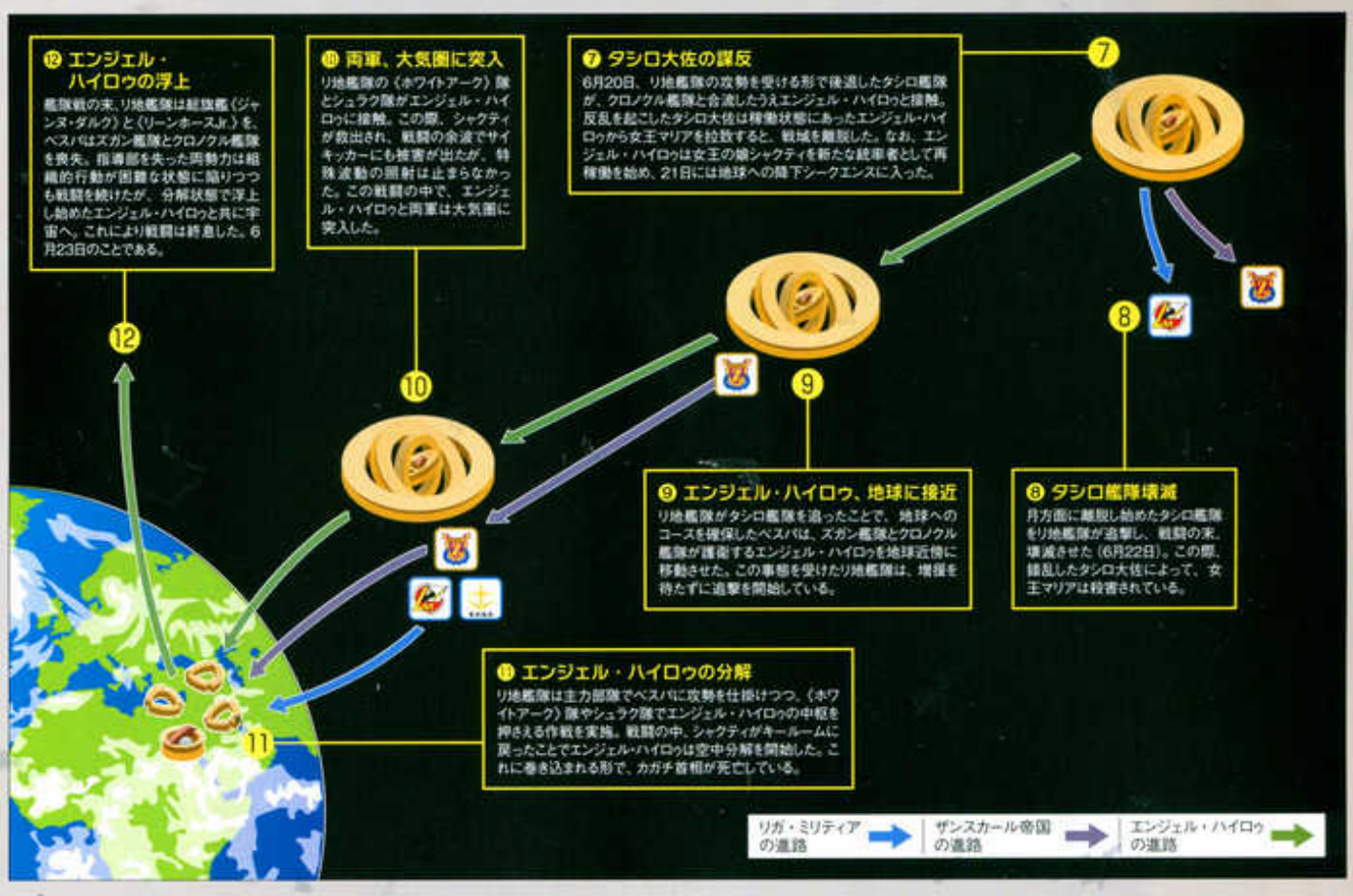
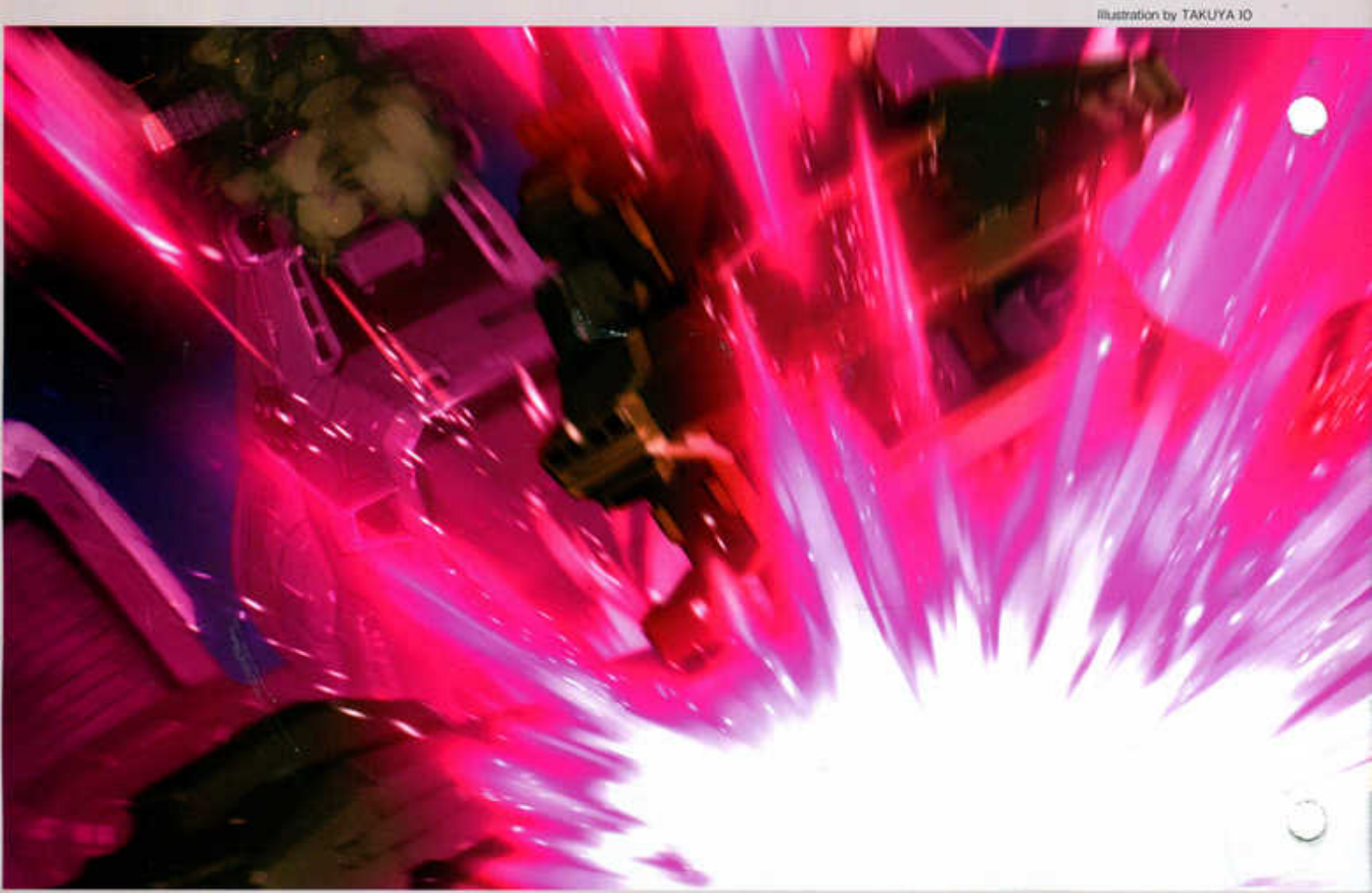


illustration by TAKUYA IO



「内憂」に敗れたザンスカール帝国

AH作戦におけるベスパは戦術面でいくつかの失敗を犯している。リ地艦隊と交戦しながらエンジェル・ハイロゥを前進させたこと、艦隊間で連携を欠いたことなどがベスパの失敗として挙げられるが、それらの原因はザンスカール帝国の内情に求められる。

タシロ大佐やクロノクルなどの艦隊司令は、カガチ首相や高級将校を粛清し、ザンスカール帝国を支配する野心を持っており、互いに牽制していた。AH作戦の中でも他艦隊の戦力を減らすよう、共同戦線を拒んだり、後退して他艦隊を戦闘に巻き込んだり、敵の命を狙ったりと、足を引っ張り合っていた。

軍人同士の反目は、宇宙戦国時代に勃興した軍事国家の宿命だったのかもしれない。

かつて処刑されそうになっただけでなく、エンジェル・ハイロゥの存在を隠されていたタシロ大佐は、カガチ首相に不信と恨みを抱いていた。

リガ・ミリティアとムバラク艦隊も戦術的なミスを犯したが、ザンスカール帝国と異なり内部対立はなく、連携は上手くいっていた。

リガ・ミリティア、ムバラク艦隊の勝因

リガ・ミリティアと地球連邦軍（の一艦隊）という異なる組織が合同したが、大きな問題もなく有機的に組織が機能した。リガ・ミリティアが指揮権にこだわらなかったこと、ムバラク艦隊がリガ・ミリティアを遊撃部隊として扱ったこと、ムバラク艦隊の将兵がリガ・ミリティアに敬意を払ったことなどが要因であろう。両組織の指揮官が特攻を辞さないほど士気が高かった点も、勝利に貢献したようだ。

ムバラク艦隊旗艦（ジャンヌ・ダルク）に、リガ・ミリティアの指導者ハンゲルグが同乗する形も両組織の良好な関係を体現していた。

ザンスカール帝国の敗因

作戦中にエンジェル・ハイロゥを確保し政敵を排除しようとするカガチ首相や各艦隊司令の存在が、戦術を不徹底にした。特にタシロ大佐の反乱は、ベスパの戦力減少に直結している。タシロ大佐離脱後、ズガン艦隊とクロノクル艦隊は協同で作戦に当たり、エンジェル・ハイロゥの地球降下に成功したが、被害を無視して迫るリ地艦隊を阻止できなかった。

戦闘中に口論し互いに命を狙ったタシロ大佐とビビニーデンだけでなく、女王の弟クロノクルの野心も混乱を助長した。

MORE INFO!

ハイエンド機動兵器の影響

ハイエンド機動兵器が戦術レベルの戦闘に与える影響の大きさは、一年戦争期から認知されている。AH作戦でも、ハイエンドMSゲンガオゾを失ったタシロ艦隊が思い掛けない脆さを見せ、短時間で壊滅した。

長距離ビーム砲を持つザンネックは、リ地艦隊にとって大きな脅威となった。リ地艦隊のハイエンドMS、V2ガンダムもベスパを震撼させた。

LM314V23/24
V2アサルトバスターガンダム

アサルトとバスターの固パーツを装備したV2ガンダム。あらゆる距離帯で高度な戦闘能力を発揮するうえ、防御力も高い。

ZMT-S33S
ゴトラタン

長距離ビーム・ランチャーを装備するベスパのハイエンドMS。キャノン・ユニットは切り離しと再合体が可能である。

機動戦士ガンダム 第08MS小隊

TIMELINE

U.C.0079

ラサ基地攻略戦

公国軍がジャブロー侵攻を目的として開発したMAアプサラスの建造場所を特定した連邦軍は、大部隊を投入した攻略戦を開始。シロー・アマダ率いる第08MS小隊も作戦に参加したのだが、今のシローにとっては戦闘の趨勢よりもアイナ・サハリンの動向のほうが重要だった。

U.C.0079 12月上旬

連邦軍、ラサ基地攻略戦を開始

公国軍が秘匿するMAアプサラスの建造施設がラサ地区にあることを特定した連邦軍は、イーサン・ライヤー指揮の下、大規模部隊による攻略戦を開始。しかし鉱山跡地を利用したラサ基地は鉄壁の防御を誇り、連邦軍の大部隊も攻めあぐねてしまう。それでもライヤーは軍を引こうとせず、友軍の損害を無視して基地攻略作戦を強行するのだった。

ジェット・コアブースターの大編隊とMS部隊で構成された連邦軍は、公国軍が布いた防衛線に苦労しながらも、少しずつ前進し続けていた。

軍を率いるライヤーがこれほど強引な作戦を展開するには理由があった。彼はレビルをライバル視しており、自らも軍功を上げることでレビルを上回る影響力を得ようと考えていたのだ。

U.C.0079 12月上旬

ノリス、単機で出撃

アイナ・サハリンの目付け役としてラサ基地防衛の任に当たっていたノリス・パッカードの目には、友軍の劣勢は明らかだった。そこで上層部が傷病者を載せた病院船を発進させると聞くや、病院船の発進準備が整うまでの時間稼ぎすることを決意。麓の都市部からラサ基地に長距離砲撃を仕掛ける量産型ガンタンクを次々と撃破していった。

単機で戦場に舞い戻ったノリスは病院船発進の妨げとなる量産型ガンタンクの排除を開始。巧みな動きと戦術で標的を次々と撃破していった。

08小隊はグフ・カスタムの破壊を狙うが、ノリスは常に一歩先んじた動きを見せ、5機の量産型ガンタンクのうち4機を撃破している。

U.C.0079 12月上旬

シロー、ノリスと交戦

量産型ガンタンク部隊の護衛任務に就いていた第08小隊だが、ノリスが操るグフ・カスタムに翻弄され、防衛対象を次々と撃破されてしまう。残る量産型ガンタンクは1機のみ。事ここに至って08小隊隊長シロー・アマダはノリスとの直接対決を決意。だが接近戦でもノリスは一歩も引かなかった。彼は軍人としての矜持を懸けて、戦っていたのだ。

戦いの最中、グフ・カスタムのヒート・ワイヤーを受けたガンダムEz8は、電撃で機能停止してしまった。

自力で機能を回復させたシローが戦闘を再開。破損した左腕を引きちぎって戦う姿に、ノリスは戦士としての気概を見たようだ。

動けなくなったEz8を盾にして、残る量産型ガンタンクへと向かうグフ・カスタム。08小隊の部下も手を出せずにいたのだが……。

一瞬の静寂の後、最後の攻撃に移る2機。シローのビーム・サーベルがグフ・カスタムを捉え、勝負は決したかに思えたのだが……。

U.C.0079
12月上旬

連邦軍、公国軍ラサ基地に対する攻略戦を開始。

連邦軍大部隊がラサ地区の鉱山に大攻勢を仕掛ける。

公国軍、防衛戦を展開して抵抗。

公国軍、病院船の発進準備に入る。

ノリス、単機で量産型ガンタンクの破壊に向かう。

ノリス、4機の量産型ガンタンクを破壊。

シロー、ノリスと交戦。

戦闘中、シローのガンダムEz8がシステムダウン。

シロー、ガンダムEz8を再起動させる。

シロー、ノリスのグフ・カスタムを撃破。だがノリスも最後の量産型ガンタンクを破壊。

MORE INFO!

死を賭したノリスの思惑

歴戦の古強者であるノリスには友軍の不利は揺るぎようのない事実であり、自分ひとりの戦果で戦況を逆転できるとは考えていなかった。だからこそ友軍をひとりでも多く脱出させるよう、病院船の脱出路確保にこだわり、その妨げとなる量産型ガンタンクの破壊に集中したのだ。その決意はシローとの戦闘中にも揺らぐことなく、最後には自らの命と引き換えに量産型ガンタンクを破壊した。自分に課した任務を全うすること。それこそがノリスの誇りであり、矜持だったのである。

ノリスの標的はあくまで量産型ガンタンクであり、Ez8のサーベルを受けながらも、その銃口はガンタンクを狙い続けていた。

最期の瞬間、ノリスは高らかに「勝ったぞ」と叫んだという。任務を完遂したことに対する満足感が、そう言わしめたのだろう。

NEXT PAGE

U.C.0079 12月上旬

アプサラスIII、出現

グフ・カスタムの撃破を確認したライヤーはラサ基地への進撃を命じるが、部隊の前に巨大な機影が立ちはだかった。ギニアス・サハリンが心血を注いで建造した巨大MAアプサラスIIIである。だが圧倒的な火力を有するにもかかわらず、アプサラスIIIは直接攻撃を仕掛けようとしなかった。それどころか、予想外の協定を持ち掛けてきたのである。

アプサラスIIIの能力をもってすれば、連邦軍の排除も可能だったかもしれない。だがアイナは戦闘継続を望まず、連邦軍に協定を持ちかけた。

病院船の脱出を認めてくれればアプサラスIIIは一時停戦に応じる――アイナの申し出をライヤーは受け入れたが、その裏で狙撃部隊の準備を命じている。

U.C.0079 12月上旬

公国軍病院船、戦場からの離脱を図る

アプサラスIIIのパイロット（アイナ）の真意を図りかねる連邦軍は一応の停戦に入るが、ライヤーは密かに狙撃部隊の配置を命じる。一方、連邦軍の動きが止まったことを確認した公国軍は病院船の発進シークエンスに移行。隠されていたレールが露わになり、そこから病院船が打ち上げられた。このまま無事、大気圏外に離脱するものと思われたが……。

アイナの独断を良しとしないギニアスがアプサラスIIIのメガ粒子砲を発射。これを協定違反と見なしたライヤーも病院船への攻撃を命じている。

基地を離脱した病院船だが、長距離狙撃を受けて爆散。ノリスの命を賭した働きも、アイナの願いも霧消することになってしまった。

U.C.0079 12月上旬

シロー、アイナを説得

目の前で病院船を撃墜させられ、怒りに震えるアイナは連邦軍へ反撃を仕掛けようとする。するとそこにシローのガンダムEz8が出現。アイナが殺戮に手を染めることを望まないシローは停戦を願い出、ついにアイナの心を動かすことに成功する。だがギニアスは戦いに甘い感情は無用だと、実の妹に銃を向けるのだった。

怒りのままに連邦軍本隊へ攻撃を仕掛けようとしたアイナ。しかし、その場に駆け付けたシローが停戦を呼び掛けてきた。

シローの声に冷静さを取り戻したアイナは、これ以上の戦闘継続の無益さをギニアスに訴える。しかし、ギニアスは耳を貸そうとしなかった。

アプサラスIIIで戦果を挙げることに執着するギニアスは、それを妨害するアイナを敵と断定。実の妹に銃を向けると、躊躇うことなく引き金を引いた。

胸に銃弾を受けたアイナはコクピットから放り出されたが、シローによって救助された。さらに銃弾は思い出の懐中時計によって止まっており、九死に一生を得ることができた。

U.C.0079 12月上旬

シローとアイナ、アプサラスIIIと交戦

かろうじてアイナを救出したシローは、戦いの元凶であるギニアスを止めるべく、アイナと共にアプサラスIIIに突進。途中、連邦軍狙撃部隊の妨害を受けても進撃を止めるには至らず、ついにアプサラスIIIに肉薄する位置に到達した。だがギニアスも攻撃のチャンスを窺っており、両機はもつれ合うようにしながら鉱山跡に落下していった。

意を決したシローとアイナは半壊したEz8に搭乗。今にもメガ粒子砲を発射しそうなアプサラスIIIに突っ込み、そのコクピットを破壊した。

コントロールを失ったアプサラスIIIはEz8と共に鉱山跡に落下、大爆発を遂げた。こうしてラサ基地攻略戦は連邦軍の勝利に終わったが、シローとアイナが人々の前に現れることはなかった。

U.C.0079 12月上旬

連邦軍、ラサ基地への進撃を開始。

アプサラスIII、ラサ基地から出現。

アイナ、連邦軍に病院船の脱出を認める代わりに一時停戦することを持ち掛ける。

病院船、ラサ基地から発進。

連邦軍狙撃部隊、病院船を攻撃。

病院船、撃墜される。

アイナ、連邦軍部隊に攻撃を開始。

シロー、アイナに停戦を訴え、成功する。

ギニアス、アイナに銃を向ける。

アイナ、アプサラスIIIから放逐される。

シロー、アイナを救出。

シロー、アプサラスIIIと交戦。

ガンダムEz8とアプサラスIII、鉱山跡に落下。

シローとアイナ、消息不明となる。

MORE INFO!

その後のシローとアイナ

最後の戦闘で姿を消したシローとアイナだが、実は密かに戦場を脱して生き延びていた。戦争とはいえ不条理な命のやり取りをすることに嫌気が差し、世捨て人のように暮らすことを選んだのである。そのため消息については誰にも告げていなかったのだが、ふたりの生存を信じるミケル・ニノリッチとキキ・ロジータが戦後、ふたりの捜索を開始。苦難の旅の果てに再会を果たしたとの記録が残されている。

旅の途中、08小隊隊員の名を冠する少年少女と出会ったミケルたちは、シローの生存を確信したようだ。

その後も旅を続けたミケルとキキは、山間の湖畔でシローとアイナと再会を果たしたと言われている。

【沙慈・クロスロード】イノベイド勢力との決戦後、ルイスの介護をしながら軌道エレベーター関係の仕事をしていた沙慈（左）。西暦2314年、ルイス（右）の脳量子波に惹き寄せられたELSと遭遇し、駆け付けた刹那に救われる。その後、自分が今できることをしようと、ELSの調査の中で政府を手伝うのだった。

【GNアーマーTYPE-D】西暦2307年における国連軍との戦闘で、ブレマイオスを襲うジンクス隊を退けたのち艦艇隊に対艦攻撃を仕掛けた。その際にアリー・アル・サーシェスの駆るガンダムスローネツヴァイの急襲を受けて被弾し、止むを得ず分離している。

[さ]

サーシェス専用 AEUイナクトカスタム
AL-SAACHEZ'S AEU ENACT CUSTOM

モラリア共和国の民間軍事会社PMCトラストで造られたイナクトの改良機。ビーム兵器の搭載を見越して頭部と肩部の電力受信アンテナが大型化されており、パワー供給量が大幅に向上している。パイロットであるアリー・アル・サーシェスの要望で装甲を減らし、軽量化が図られているほか、ソニックブレイドを内蔵したブレイドライフルを主兵装に変更した。

【サーシェス専用AEUイナクトカスタム】ガンダムの鹵獲を目的として、モラリアの軍事演習の際にサーシェスへと譲渡（対外的には盗まれたことに）された。タクラマカン砂漠での合同軍事演習の際はAEUの外人部隊メンバーとしてサーシェスが参加するため、機体色を変更。アグリッサのプラズマフィールドに対応した赤系の特殊塗装にて用いられた。

サキブレ
SAKIBURE

ガンダムの影響を受けて開発された、西暦2364年における最新MS。ワークローダーとして運用され、腕部には工具コンテナを備えている。複数のタイプが存在し、頭部にELS、腹部に人間のパイロットを乗せたオリジナルの太陽炉搭載型や、ELS単体型、人間単体型、動力源をコンデンサーとしたタイプなどがある。

【サキブレ】外宇宙航行艦スメラギに搭載されたサキブレはオリジナルの太陽炉を動力源としたタイプで、量子ジャンプを可能とする。

沙慈・クロスロード
SAJI CROSSROAD

宇宙工学を専門に学ぶ日本の高校生。JNNの記者である姉の絹江・クロスロードと二人暮らしで、恋人ルイス・ハレヴィに振り回される普通の日々を過ごしていた。しかし、西暦2307年におけるソレスタルビーイング（CB）の武力介入を機会に、世界へと目を向けるようになっていく。そして、偶然にも隣人となったCBのガンダムマイスター、刹那・F・セイエイと素性を知らずに知り合い、その出会いは彼の運命を大きく変える。CBのもたらした変革は、沙慈から恋人と姉を奪う。そして西暦2312年、宇宙開発に関係した仕事に就いていた沙慈は、反政府組織カタロン構成員の疑いを掛けられたことでCBと独立治安維持部隊アロウズの戦いに巻き込まれるのだった。そこで刹那と再会し、彼がCBであったことを知る沙慈。自分の平和を壊した刹那に怒りをぶつけながらも、CBと行動を共にすることで彼を次第に理解していく。そんな中、ルイスがアロウズの兵士となっていることを知り、彼女を取り戻すために戦うことを決意。そうしてイノベイターへと革新した刹那の導きにより、ルイスと和解できた沙慈は、彼女を取り戻して日常へと還るのであった。

[し]

GNアーマーTYPE-E
GN ARMS TYPE E

ガンダムの強化支援機「GNアームズ」と合体したガンダムエクシア。武装を備えた外装（GNアームズ）を着込むようにドッキングし、手足の延長として扱う。タイプEはエクシア用の機体であり、大型GNソードを備えた格闘戦対応機となっている。また、GNフィールドの展開も可能。なお、戦闘機としてGNアーマー単機でも高い戦闘力を持つ。操縦はラッセ・アイオンが担う。

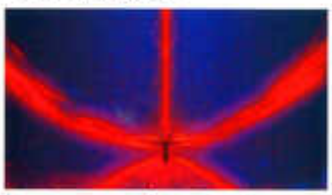
【GNアーマーTYPE-E】西暦2307年における国連軍との戦いで、アレハンドロ・コーナーが搭乗するMAアルヴァトーレと交戦した。

GNアーマーTYPE-D
GN ARMS TYPE D

ガンダムの強化支援機「GNアームズ」と合体したガンダムデュナメス。タイプDはデュナメス用の機体であり、両腕部に火器を装備した射撃仕様機となっている。GNツインライフルと超大型GNミサイルポッドを備えており、高い火力を持つ。なお、GNアームズのコントロールもデュナメス側で行っている。

GNステルスフィールド

GN粒子を散布して広範囲をジャミングする機能。ガンダムスローネドライに搭載された巨大な発生装置によって生み出される、膨大なGN粒子によって可能となる。



【GNステルスフィールド】GN粒子の特性のひとつであるレーダーの妨害機能を強化し、兵装として採り入れたものである。タクラマカン砂漠での合同軍事演習において展開し、トレミーチームの脱出を手助けした。

GNソード
GN SWORD

ガンダムエクシアの主兵装となる武装。実体剣を主体とし、ライフルモードへの変形によってビームライフルとしても機能するマルチウェポンである。実体刃はGN粒子によって切断能力を高めている。ダブルオーガンダムには、ビーム剣の機能も付加したGNソードⅡ。刃に新素材を導入しつつ複数のライフルモードを採り入れたGNソードⅢとして、ダブルオークアンタではGNソードビットと併用して斬撃／射撃を強化できるGNソードⅤとして受け継がれ、より洗練された武装となっていく。また、ガンダムハルートのGNソードライフルなど派生型も造られた。

【GNソード】GNフィールドを切り裂くことができる実体剣は対GNドライヴ搭載機に対する切り札であり、エクシアは裏切り者に対する備えを持つガンダムであった。西暦2307年における国連軍との戦闘では、ソレスタルビーイングの裏切り者アレハンドロ・コーナーの駆るMAアルヴァトーレに対し、GNアーマーTYPE-Eが相対。アルヴァトーレやアルヴァアロンのGNフィールドを実体剣で切り裂いた。

GNドライヴ
GN DRIVE

通称「太陽炉」。ソレスタルビーイングの機動兵器「ガンダム」の動力源で、炉心部にTDブランケットを採用し半永久的にGN粒子を生み出すエネルギー機関である。製造には木星などの高重力環境が必要である。なお、GNドライヴのブラックボックスには、コールドスリープにあったイオリア・シュヘンベルグの死がトリガーとなってトランザムシステムの解放と、ツインドライヴシステムの理論データ開示が行われた。

【GNドライヴ】オリジナルの太陽炉は西暦2307年において5基しか存在せず、西暦2314年、ツインドライヴシステムを備えたダブルオークアンタのために新たに2基が製造された。新造されたGNドライヴは2年足らずで造られており、技術の進歩が窺える。

GNドライヴ［T］（タウ）
GN DRIVE［T］(TAU)

通称「疑似太陽炉」。GN粒子を発生させるエネルギー機関だが、正確には電力をGN粒子に変換するための変換炉である。機能自体はオリジナルの太陽炉と同じだが、TDブランケットは使用されておらず稼働時間は限られている。電力切れで停止した際、再始動や充電には専用の設備を必要とする。また、短い時間で完成するため生産性が高い。イオリア計画に介入する機会を狙っていたコーナー家が、木星基地で回収したAI端末HAROに残されていたデータを基に開発。アレハンドロ・コーナーが密かに用意し、西暦2307年、30基がジンクスと一緒に三大勢力へと提供された。以降、量産が進み、西暦2314年時には地球連邦軍宇宙艦艇の動力源にも採用されている。

【GNドライヴ［T］】オリジナルのGNドライヴとは異なり、赤い色のGN粒子を発生。西暦2307年の時点では攻撃に使う圧縮粒子に適性を帯びており、絶縁の異常を引き起こした。そのため、これを浴びたルイス・ハレヴィは左腕の再生治療が行えなかった。その後に改善され、無害となっている。

GNファング

無線の遠隔操作兵器。標的に対して多角的な攻撃を加えることができる。ビームによる射撃攻撃のほか、ファングの特徴としてビーム刃を発生させての突撃攻撃も可能。AI等のコンピュータ機器におけるコントロール方法のほか、脳量子波による制御を行うタイプも多い。また、突撃攻撃を主体とした遠隔操作兵器として、GNビームサーベルファング（ガンデス）、GNシザービット（ガンダムハルート）が存在。ほかの遠隔操作兵器としては、防御を主体としたGNシールドビット（ケルディムガンダム）、射撃主体のGNライフルビット（ケルディムガンダム）などがある。

【GNファング】ガンダムスローネツヴァイの主兵装のひとつとして用いられ、アルヴァトーレ、アルケーガンダム、リボーンズガンダム（GNフィンファング）、レグナント、ガデラーザなどが搭載している。

GNフィールド

高濃度のGN粒子を展開したバリア。粒子圧縮率の調整によって特性を変化させることができる。ただし、特性に合わせたビームを受けた場合、貫通される危険がある。また、ガンダムエクシアなどが装備するGNシールドは、Eカーボン製のシールドにGN粒子の特殊フィールドを形成して防御力を高めている。

【GNフィールド】ガンダムヴァーチェは、GNキャノンと脚部のGNフィールド発生装置を展開することで機体全体を球形に囲む強固なGNフィールドを形成できる。

GNヘビーウェポン

ガンダムの追加装備。各ガンダムの機体特性に合わせた戦闘力の向上をもたらしている。西暦2312年におけるヴェーダ奪還作戦で運用され、ケルディムガンダム、アリオスガンダム、セラヴィーガンダムそれぞれに用意された。

【GNヘビーウェポン】追加装備によって火力が大幅に向上しており、中でもケルディムのGNヘビーウェポンは新武装のGNライフルビットが追加されている。またセラヴィーは火力だけでなくGNフィールドの強化も図られていた。

GN粒子

意識を伝達する原初粒子。散布することでレーダーを無効化するジャミング能力を発揮するほか、MS／MAのエネルギー源として機体の稼働／機体重量の軽減／推進／粒子ビームとしての使用／粒子を纏うことでの大気圏突入など多岐に亘る効果を持つ。GNドライヴによって生成され、機動兵器『ガンダム』のエネルギー源として用いられていたが、疑似太陽炉搭載MSであるジンクスの登場後は、『ガンダム』に限らずGN粒子をエネルギー源とするMSが主力となっていく。機動兵器のエネルギー源に用いられたGN粒子だが、その真価はイノベイターへと人類の革新を促すための因子であった。ダブルオーライザーの放つGN粒子は、刹那・F・セイエイのほかアロウズのパイロット、デカルト・シャーマンをイノベイターへと変革させている。

【GN粒子】ツインドライヴシステムが生成する大量のGN粒子は、戦場において意識の共有をもたらした。そしてトランザムバーストは濃密なGN粒子空間を形成でき、脳量子波を使えない者同士でも意識共有を可能とする。

シーリン・バフティヤール
SHIRIN BAKHTIAR

アザディスタン王国皇女マリナ・イスマイールの側近を務める才媛。姉のようにマリナを見守り、ソレスタルビーイング（CB）の武力介入が始まった世界の政治情勢や国政に関し、厳しく教鞭を執った。地球連邦政府の樹立後、その政策下では母国に未来はないと考えてマリナの下を辞し、政府打倒のため反政府勢力カタロンの中東支部に身を寄せる。そこでリーダーのクラウス・グラードを補佐して活動を続けていたシーリンだが、西暦2312年、独立治安維持部隊アロウズに捕われたマリナが収監され、活動を再開したCBに救出されたことを知るのだった。その後カタロンがCBに接触を持ったことでマリナに再会。身柄を引き受け、共に行動する。その際、母国が滅んでも銃を取ろうとしないマリナの姿勢を受け入れられず、衝突することもあった。だが、身寄りのない子供たちとマリナが一緒に作った歌が非戦の象徴として世界に広まっていることを知り、直接戦う以外にも相互理解の大切さを教わる。イノベイド勢力の打倒後はクラウスと共に新連邦政府の議員となり、彼のサポートを担う。そして西暦2314年、マリナをはじめとする中東使節団に同行するなど中東の復興に力を尽くす。ELS襲来時も、アザディスタン王国で避難した人々の世話をマリナたちと行っていた。

【シーリン・バフティヤール】西暦2314年、ELSの襲来で連邦政府が戦う道を選んだことに対しクラウスと共に賛同を示し、生き残るため再び銃を手に取る覚悟を決める。

JNN
JNN

Japan News Network。経済特区日本の報道機関で、海外特派員に池田、報道部に網江・クロスロードが所属している。また、JNN天柱極市支社など各地に支社を持つ。イオリア・シュヘンベルグに対する網江の取材が実を結び、200年の間に多くの科学者・技術者が行方不明・謎の失踪を遂げているという報道特集を組み、番組始まって以来の視聴占有率を叩き出した。

【JNN】JNNの本社ビル。屋上には取材用ヘリポートがある。ソレスタルビーイングの武力介入が始まってからは力を入れて報道していた。

JB・モレノ
JB MORENO

プトレマイオスの医務室に常駐するソレスタルビーイングの医師。Dr.モレノと呼ばれている。国連軍との戦闘において、MAアルヴァトーレの砲撃を受けて命を落とした。メカニックのイアン・ヴァスティとは親友同士である。

【JB・モレノ】国連軍との戦闘で右目を負傷したロックオン・ストラトスを診たモレノ（右）は、再生治療に最低3週間はかかると診断した。

シュウェザァイ
SHUICHAI

人類革新連盟の水中用MA。魚雷のほか、クロー状のマニピュレーターも備え、水中における格闘戦も可能である。

【シュウェザァイ】テロ組織ラ・イデンラによって運用され、武力介入を行ったガンダムエクシア（右）に襲いかかったシュウェザァイ（左）。しかし、水中というアドバンテージをもってしてもエクシアには敵わなかった。

ジョシュア・エドワーズ

オーバーフラッグスに配属されたユニオンのトップガンのひとり。アラスカの部隊から転属したフラッグファイターであり、フラッグの空中変形（グラハム・スペシャル）を可能とする高い技量の持ち主である。タクラマカン砂漠における合同軍事演習の際に、グラハム・エーカーへの対抗意識からフォーメーションを崩して先行し、ガンダムデュナメスに撃墜された。

【ジョシュア・エドワーズ】グラハムに過剰なライバル心を抱いていたジョシュア。その想いは攻撃的な言動に表れ、次世代機のトライアルに関する過去の事故で上官を失ったグラハムを「上官殺し」と揶揄した。

ジンクス
GN-X

疑似太陽炉搭載型MS。GNビームライフルやGNビームサーベルといったビーム兵器を標準装備する汎用機である。ソレスタルビーイング（CB）の裏切り者アレハンドロ・コーナーが密かに造り上げ、疑似太陽炉と共に計30機を三大勢力へと提供。そのうち29機が国連軍として対CB戦に投入された。主なパイロットは、セルゲイ・スミルノフ、ソーマ・ピーリス、パトリック・コーラサワー、ダリル・ダッジ。

【ジンクス】機体はガンダムスローネをベースとして開発されており、武力介入に用いられたガンダムに比べて性能的にはやや劣るものの、既存のMSとは一線を画す性能を持つ。

ジンクスⅢ
GN-X Ⅲ

ジンクスの発展後継機。ジンクスと比べて粒子制御用のクラビカルアンテナが小型化された。武装は格闘／射撃を一元化したGNランスを新たに採用した。地球連邦軍で制式採用された主力機だが、西暦2312年時においては充分に配備されていない。一方、アロウズには主力として充分な数が配備されている。主なパイロットは、アラッガ、ルイス・ハレヴィ、アンドレイ・スミルノフ、セルゲイ・スミルノフ。

【ジンクスⅢ】赤いアロウズ仕様機はパイロットごとにカスタムチューンが施されており、青を基調とした連邦仕様機は燃費を重視した低出力調整を施した機体が多い。

【ジンクスⅣ】量産機は緑、指揮官機はグレーを基調としたカラーリングが施されている。豊富なオプションを特徴とする汎用機で、装備の変更によって多彩なミッションに適応可能。中でも指揮官機は武装選択の幅が広い。

ジンクスⅣ
GN-X Ⅳ

西暦2314年における地球連邦軍の主力量産機。ジンクス系を基本としてアヘッド系などの技術も取り入れており、ガンダムに匹敵する性能を獲得した。さらにヴェーダのバックアップを受けており、トランザムも可能となっている。主なパイロットは、アンドレイ・スミルノフ、パトリック・コーラサワー。なお、アンドレイ機はGNロングライフルとGNバスターソードを持つ攻撃的な装備で対ELSに臨み、パトリック機は防御力を重視し両肩にGNシールドを装備して出撃した。

真柱

人類革新連盟の軌道エレベーター「天柱」にある低軌道ステーション。沙慈・クロスロードとルイス・ハレヴィが実習で訪れていたが、アレルヤ（ハレルヤ）・ハプティズムの脳量子波に触れて混乱を来したソーマ・ピーリスによって重力ブロック第7重力区画が分離、漂流を始め、地球の重力に引かれることとなる。だがアレルヤたちソレスタルビーイングの行動によって事なきを得たのだった。

【真柱】天柱交通公社のリニアトレインのステーションだけでなく、軍事施設も設けられている。そのためティエレンタオツーの性能実験が周囲で行われた結果、事故が発生してしまう。

人類革新連盟
HUMAN REFORM LEAGUE

通称『人革連』。中国／ロシア／インドを主体とした社会主義国家群で、東南アジアやユーラシアの国家も参加している。軌道エレベーターの建造における再編に向けた統廃合が最も激しい地域であり、西暦2307年においても小規模紛争が継続中であった。ユニオンに次いで建造が叶った軌道エレベーター「天柱」を所有する。MS開発は独自路線を貫き、ティエレン系を主力量産機として配備している。なお、超人機関など非合法な人体実験を密かに手掛けており、ソレスタルビーイングの武力介入で暴露され、大きな批判を浴びた。

[す]

スイール
SUILLE

中東の一国家。世界随一の情報産業とレアメタルによって発展を遂げた国で、西暦2312年では中東で最も豊かな国家であった。スイール仕様にカスタムされたイナクト（AEUイナクトスイール王宮警護型）を配備しており、軍事力も中東一。地球連邦の中東再編成計画に反対を唱えており、組織のネットワークを通じてスイールの情報を世界に発信しようと試みる政府組織カタロンと会談を設ける。そのため、独立治安維持部隊アロウズの標的となった。

【スイール】池田の少年時代のコネで、カタロン第2中東支部長マハルら刹那はスイール王室と接触した。それを狙って大量殺戮兵器メメントモリによる大出力レーザー攻撃が撃ち込まれ、首都全域が壊滅してしまう。

スサノオ
SUSANOWO

マスラオを強化改造した機体。主兵装はマスラオのGNビームサーベルから実体剣に変更されており、腹部には展開式大型ビームキャノン「トライバニッシャー」を搭載。左腕には強化サーベルのエネルギー逆流対策としてガントレットを装備する。マスラオと同様にトランザムも可能である。パイロットはミスター・ブシドー。

【スサノオ】二刀ある強化サーベルは、連結させて双刃「ソウテン」「蒼天」として使うことができる。ラグランジュ5でダブルオーライザーに一騎討ちを挑み敗れた。

【人類革新連盟】政策は人類革新連盟国家主席が執り行っている。ガンダムの鹵獲を目的とした大規模な軍事行動が失敗したことから、主席は他の三大勢力であるユニオン及びAEUと手を結び、タクラマカン砂漠での合同軍事演習で再度ガンダムの鹵獲を狙った。

【スメラギ・李・ノリエガ】自分のエゴにより多くの命を犠牲にしたことで、戦う理由を見失っていたスメラギ。だが、「どうして僕を助けてくれたんですか」というアレルヤの言葉に自分が為すべきことを思い起こし、戦術予報士として再起する。

スメラギ・李・ノリエガ
SUMERAGI LEE NORIEGA

ソレスタルビーイング（CB）の戦術予報士。本名はリーサ・クジョウ。同輩のビリー・カタギリと共にレイフ・エイフマン教授に師事し、17歳で大学院を卒業した才媛。天才と呼ばれた戦術予報士カティ・マネキンからも一目置かれており、学生の頃は彼女を目標としていた。卒業後はAEU軍に入隊するが、情報の行き違いによって友軍同士が激突するという悲劇を招き、恋人エミリオ・リビンを失う。この事件は心の傷となり、アルコールに逃げる原因となった。過去を払拭するためCBに参加したスメラギは、西暦2307年、CBの実働部隊プトレマイオス（トレミー）にて作戦立案を担う、実質の責任者として武力介入に身を投じる。だが、国連軍との戦いで多くの仲間を失ったことで自責の念に囚われ、CBを抜けたスメラギはビリーの下で酒浸りの日々を過ごす。そして西暦2312年、突如訪れた刹那・F・セイエイによりビリーの前でCBだと暴露されたスメラギは、逃げ場を断たれて強引に復帰を促される。当初は復帰を拒むもアレルヤ・ハプティズムの救出作戦に手を貸し、彼が戦う理由を見出したことに触発されたスメラギは、再び紛争根絶に向き合うことを決意。CBの制服に袖を通すのだった。その後、アロウズを操っていたイノベイド勢力との最終決戦の最中、スメラギに裏切られたと思い込んでイノベイドに与したビリーと対峙する。トランザムバーストによる高濃度粒子空間の中、ビリーの気持ちを知っていながら気づかぬ振りで甘えていたことを謝るスメラギ。その想いは意識を共有したビリーに伝わり、ふたりはわだかまりを捨て去ることができたのである。その後の西暦2314年、ELS襲来の際はイノベイターとなった刹那を信じて戦術予報を行い、「対話」の成功に力を尽くした。

[せ]

ゼイール基地

アザディスタン王国の軍事基地。保守派の指導者マスード・ラフマディーの拉致を発端とし、アザディスタンは内戦の危機に直面する。改革派が誘致した太陽光発電施設が攻撃されたことをきっかけにクーデターの気運が高まり、ゼイール基地から真っ先にMSが出撃した。

【ゼイール基地】5機のMSアンフが無断でゼイール基地から出撃。王宮に向かうが、ガンダムエクシアの武力介入を受けてクーデターは阻止された。

刹那・F・セイエイ
SETSUNA F SEIEI

ソレスタルビーイング（CB）のガンダムマイスター。本名はソラン・イブラヒム。アザディスタン王国に武力で併合されたクルジス共和国の出身で、反政府ゲリラ組織KPSAのリーダーだったアリー・アル・サーシェスの手で少年兵に仕立て上げられた過去を持つ。西暦2307年、武力介入の中でアザディスタン王国の第一皇女マリナ・イスマイールと出会った刹那は、非戦を貫き話し合いで平和を目指す姿に共感を覚える。それでも自分は戦うことしかできないと、世界の歪みを破壊することで平和を築こうと戦い続ける。だが、イオリアの計画は何者かの手で歪められていき、国連軍との戦いでCBは壊滅してしまう。その後、統一が進んだ世界を放浪した刹那は、自分たちの武力介入が別の歪みを生んだことを知る。そして西暦2312年、活動を再開したCBに合流し、弾圧を繰り返す地球連邦の独立治安維持部隊アロウズを世界の歪みとして破壊すべく戦う。その戦いの中、刹那は進化した人類――イノベイターへと変革。「イオリア計画」は紛争根絶のその先、外宇宙に進出した人類が異星生命体と平和裏にコミュニケーションを図る「来るべき対話」に向け、人類の進化を促す計画であったことを理解する。その計画に介入し、アロウズを操って世界を歪ませていた元凶リボンズ・アルマークらイノベイド勢力を討ったことで、世界は平和に向けて動き出した。その矢先の西暦2314年、地球外変異性金属体ELSが襲来し、早過ぎる「来るべき対話」に戦端が開かれてしまう。しかし、イノベイターとなった刹那は対話に成功し、人類とELSの共存の道を拓く。西暦2364年、人類が外宇宙へと旅立つ日に対話から帰還した刹那は、マリナの下を訪れて彼女の道が正しかったことを告げる。一方マリナもまた刹那の道が正しかったと語り、ようやくふたりの道はひとつとなったのだった。

【刹那・F・セイエイ】「俺がガンダムだ！」――歪んだ世界を正す象徴として「ガンダム」を捉えていた刹那。平和を実現する上で、少年兵だった自分ができることは戦うことだけだと考え、自らが「ガンダム」であろうと行動した。その過程で、紛争をなくすために人類は変わらなければならないと強く想い描いた刹那は、覚醒を促す要素だったGN粒子の恩恵を受けてイノベイターへの変革を遂げた。

【セラヴィーガンダム】複数のGNバズーカⅡとGNキャノンを主兵装とし、その組み合わせによって多彩な攻撃方法を採ることができる。

セラヴィーガンダム
SERAVEE GUNDAM

ガンダムヴァーチェの発展後継機。対艦隊/対要塞戦を得意とするコンセプトを受け継いで、ヴァーチェを超える火力を獲得した。また複数の隠し腕を有し、格闘戦能力も強化されている。さらにフルパワーで一時的に総合性能を向上させるフェイスバーストモードを新たに搭載。その発動時は背中にガンダム・フェイスが出現する。新生したソレスタルビーイングで最初に実働された機体で、ティエリア・アーデのために造られたガンダムである。

セラヴィーガンダムⅡ
SERAVEE GUNDAM Ⅱ

ラファエルガンダムの上部ユニットが変形した無人機。イノベイド勢力との戦闘で破損したセラヴィーガンダムをリペアした機体で、太陽炉に代わり動力源は疑似太陽炉に置き換わっている。GNビッグキャノン部分が脚部を構成し、合計3基のGNドライヴ［T］を搭載。コンデンサー式であるラファエルへの粒子供給も担う。

【セラヴィーガンダムⅡ】主兵装は両腕に携行したGNバズーカ。ダブルオーライザーがELSに侵蝕された際に急行し、刹那・F・セイエイの救助を行った。

セラヴィーガンダムGNHW/B
SERAVEE GUNDAM GNHW/B

セラヴィーガンダムの強化仕様。GNキャノンとGNフィールド発生装置を追加することで、攻防どちらも強化された。GN粒子の消費増大に伴い、同時にGNコンデンサーも増設している。

【セラヴィーガンダムGNHW/B】GNキャノン6門とダブルバズーカの一斉射など、ガンダム随一の火力を誇る。コロニー型外宇宙航行母艦ソレスタルビーイングを巡る最終戦闘において運用された。

セラフィムガンダム
SERAPHIM GUNDAM

セラヴィーガンダムの本体。隠されたもう1機のガンダムで、通常はセラヴィーの背中にバックパックとして合体している。両腕部は変形することで元のGNキャノンとして機能する。分離時にセラヴィーは無人機として遠隔操作が可能。これによりプリング・スタビティのガラッゾをセラヴィーで抑え込み、分離したセラフィムでとどめを刺すという戦法が可能となった。ガンダムナドレの後継機であり、トライアルシステムを搭載する。パイロットはディリア・アーデ。

【セラフィムガンダム】ヴェーダを奪還したティエリアがトライアルフィールドを展開。ヴェーダとリンクするイノベイドの機体を制御下に置いた。

セルゲイ・スミルノフ
SERGEI SMIRNOV

「ロシアの荒熊」の異名を持つ人類革新連盟（人革連）の軍人。部下からの信頼も厚い現場主義の人間である。西暦2307年におけるソレスタルビーイング（CB）の武力介入に呼応し、セルゲイは人革連で発足された対ガンダム特務部隊の責任者として任命される。ガンダムへの切り札として配属された超兵1号ソーマ・ピーリスとの絆を深めながら、国連軍のガンダム掃討作戦にてガンダムマイスターのアレルヤ・ハプティズムの捕獲に成功する。その後、地球連邦軍に所属。娘のように感じていたピーリスを妻に迎えようとするが、西暦2312年、CBの再始動と共にセルゲイが不信を抱く独立治安維持部隊アロウズにピーリスは召集されてしまう。さらに任務を優先して母親を見殺しにしたとして互いに確執のある息子、アンドレイ・スミルノフもまたアロウズに参加していた。そんな中、ピーリスが戦闘で行方不明となり、セルゲイは救援に駆け付ける。そこでアレルヤと一緒にいたピーリスから、マリー・パーファシーという本来の記憶を取り戻したことを聞かされる。彼女の幸せを願ったセルゲイは、ピーリスを戦死したことにしてアレルヤに託す。その後、戦友バング・ハーキュリーのクーデターが発生した際、正規軍の特使として説得に向かう。だが、直後のブレイクピラー事件において、バングの仲間と勘違いをした息子アンドレイに討たれてしまう。主な搭乗機はティエレン高機動型、ジンクスⅢ、ティエレン全領域対応型。

戦術予報士

さまざまな事象や記録などを考慮し、高いレベルで戦略や戦術の立案・予測を行う人物。その予測は非常に的確であり、ソレスタルビーイングのスメラギ・李・ノリエガは量子演算処理システム「ヴェーダ」と変わらぬ結論を導き出すほどであった。戦術予報士として、AEU軍のカティ・マネキン、リーサ・クジョウ（スメラギの本名）などが知られている。

【戦術予報士】誤情報によって友軍同士が衝突したAEU軍の事件は、カティとリーサの戦術予報士が優秀過ぎた結果、より大きな被害が生じた。

［そ］

ソーマ・ピーリス
SOMA PERIES

人類革新連盟（人革連）の超兵1号。超人機関技術研究所によって造られたデザインベビーで、肉体強化のほか脳改造によって脳量子波を操ることができる。本名はマリー・パーファシーであり、脳量子波に応えてくれた子供――アレルヤ（ハレルヤ）・ハプティズムに名を贈り、唯一の友人として生きる支えになっていた。だが、アレルヤの研究所脱走後、失っていた五感を回復させる処置として「ソーマ・ピーリス」の人格を上書きされる。西暦2307年、ガンダムに対する切り札として、特務部隊である頂武に配属。ガンダムマイスターとなったアレルヤとセルゲイ・スミルノフの部下として対時し、国連軍によるソレスタルビーイング（CB）掃討作戦において捕虜とした。そして西暦2312年、活動を再開したCBに抗するため独立治安維持部隊アロウズに招聘されたピーリスは、捕えられたアレルヤと再会。マリーの記憶が戻り、ピーリスを想うセルゲイの計らいによってCBに身を寄せることとなる。だが、ブレイクピラー事件の際、セルゲイが息子アンドレイ・スミルノフに誤って討たれたことを契機にピーリスの人格が復活。復讐のため戦場に身を置くようになる。しかし、ダブルオーライザーのトランザムバーストが形成する高濃度粒子空間において、アンドレイと意識の共有を果たしたピーリス（マリー）は、その心の内を知って復讐は無意味だと気づく。イノベイド勢力の打倒後はアレルヤと一緒に追われの旅に出ていたが、西暦2314年にELSの襲撃を受けてCBに復帰。アレルヤと共に、刹那・F・セイエイがELSと対話するために力を尽くした。主な搭乗機はティエレンタオツー、ジンクス、アヘッド脳量子波対応型（スマルトロン）、GNアーチャー、ガンダムハルート。

外宇宙航行艦スメラギ
SUMERAGI

外宇宙の探索を目的として開発された人類初の外宇宙航行艦。搭乗員はすべてイノベイターとなっており、最新鋭MSのサキプレを搭載する。ソレスタルビーイングの戦術予報士、スメラギ・李・ノリエガの名が冠されている。総責任者としてクラウス・グラードが乗艦。

【外宇宙航行艦スメラギ】西暦2364年、外宇宙に向けて旅立とうとするスメラギ。オリジナルの太陽炉を動力源とし、長期に及ぶ航海に対応している。

ソラン・イブラヒム
SORAN EBRAHIM

ソレスタルビーイングのガンダムマイスター、刹那・F・セイエイの本名。中東の小国であるクルジス共和国に生まれ、反政府ゲリラ組織KPSAのリーダーだったアリー・アル・サーシェスの洗脳を受け、少年兵としてKPSAの構成員となる。西暦2301年、神のいない現実を知ったソランは0ガンダムの性能テストに遭遇。圧倒的な力を振るう「ガンダム」の姿に神を見るのだった。その時から、刹那にとって「ガンダム」は歪んだ世界を正す象徴となる。

【ソラン・イブラヒム】0ガンダムのガンダムマイスターだったリボンズ・アルマークは、神を見たかのようなソランの瞳を気に入り、目撃者として始末することなくガンダムマイスターへと推挙したのである。

ソルブレイヴス
SOLBRAVES

西暦2314年に設立された地球連邦軍の強襲部隊。宇宙開拓時代に突入し、拡大する宇宙開発に対応した緊急展開部隊が必要となる。そのため優れた機動力と制圧力を持つ。実証試験としてブレイヴ指揮官用試験機とブレイヴ一般用試験機が配備されており、ヴァージニア改級試験特務艦アルトリウスを母艦とする。

【ソルブレイヴス】隊長にグラハム・エーカー、副隊長にヴィクトル・レオーノフ、隊員にルドルフ・シュライバー、アキラ・タケイ、イェガン・クロウ、ネフェル・ナギーブの6人で構成される。

【セルゲイ・スミルノフ】軍人として実直である一方、人間として不器用なセルゲイは、母を失って傷付く息子アンドレイにどう接していいかわからず、無為に時間を過ごして親子の関係に大きな溝を生んでしまう。そのツケが息子から信頼されず討たれる要因となってしまった。

【ソーマ・ピーリス】超兵として感情の起伏に乏しい「兵器」であったが、セルゲイとの交流を経て人間らしい感情が芽生えたピーリスは、セルゲイを父のように慕うようになる。CB壊滅後は共に暮らしており、「義父に」とセルゲイから託されていた。

お買い忘れなく安心！発売日をメールでお知らせします！ ご登録ください

発売日 お知らせメール♪

PC用 http://deagostini.jp/oshirase/gpf/

携帯用 http://deagostini.jp/gpf/ 携帯用QRコード

COMING NEXT ISSUE..

《次号予告》

LINE UP

第150号 ラインナップ

MECHANIC FILE メカニックファイル
- ズサ
- Zガンダム
- 量産型νガンダム
- コスモグラスパー／スカイグラスパー制式採用機

PERSONAL PROFILE パーソナルプロファイル
- サラサ&ラサラ・ムーン
- ネェル・アーガマの乗員A
- シュバルツ・ブルーダー
- ヒルデ・シュバイカー

WORLD GUIDE ワールドガイド
- アロウズの躍進
- ロストマウンテンの悲劇
- ECOAS（エコーズ）

A.C.TIMELINE アフター・コロニー年表
- 結集する力

C.C.TIMELINE 正暦年表
- 黒歴史の解放

GLOSSARY ガンダム用語辞典
- 「機動戦士ガンダムOO」用語集

第150号

定価：本体562円＋税

8月5日（火）発売

※地域によって発売日が異なる場合があります。

シュバルツ・ブルーダー

コスモグラスパー

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』特製リングバインダーの利用方法

1 週刊「ガンダム パーフェクト・ファイル」を各ページごとに、ていねいに切り離します。

2 ディバイダーを使って6つの章に分類し、各ページをファイルナンバーにしたがってファイリングします。

3 毎号同じようにして、全ての章をファイリングしていきましょう。

4 全号集めると、ガンダムのことがすべてわかる、ビジュアル大百科になります。

切り離した表紙を大切に保管できる、**表紙用ポケットファイル発売中!!**

当社通販にて発売中！

デザインは3種類。
詳しくは、デアゴスティーニセレクト通販サイトをご覧ください。

http://deagostini.jp/select/

週刊「ガンダム パーフェクト・ファイル」全員プレゼントの応募券です。切り取って専用応募ハガキに貼り付けて、ご応募下さい。詳しくは定期購読のお知らせ用紙をご覧下さい。

応募券 GPF-150

THE OFFIC

ンダム パーフェクト・ファイル

GUNDAM

ECT

149

MECHANIC FILE

ゴトラタン／ヅダ／
『袖付き』のMS③／
F90Ⅱバリエーション／
早期警戒・空中指揮型ディン特殊電子戦仕様

PERSONAL PROFILE

カテジナ・ルース／
クロノクル・アシャー／
フェザール・イゼルカント／
ドレーネ・イゼルカント／
ヒクサー・フェルミ／ハヤナ

WORLD GUIDE

サンクキングダム崩壊／
AH作戦

U.C.TIMELINE

ラサ基地攻略戦

GLOSSARY

『機動戦士ガンダムOO』用語集

今週のMS❶
ZMT-S33S GOTTRLATAN

カテジナ・ルース

AH作戦

©創通・サンライズ
©創通・サンライズ・MBS

4910205220843
00562

雑誌 20522-8/12 通巻 149 号
Ⓛ-2017/3/1 2014年8月12日発行

発行所—デアゴスティーニ
定価： 本体 562 円 ＋税